

小平市都市計画マスタープラン改定（素案）に対する  
市民意見公募手続（パブリックコメント）の実施結果

1 実施結果の概要

実施期間	平成28年12月15日（木）から平成29年1月13日（金）
応募者数	52名
	属性 男性 33名 / 女性 18名 / 団体代表 1名
	年齢層 10代 0名 / 20代 2名 / 30代 2名
	40代 10名 / 50代 5名 / 60代 11名
	70代 9名 / 80代 2名 / 90代 1名 無記入 10名（団体含む）
提出の方法	ホームページ 16名 / 電子メール 4名 / ファクシミリ 3名 郵送 21名 / 持参 8名

2 意見等の内容別件数

意見の種類		件数
対象（総件数）		152件
内 訳	<b>第1部 はじめに</b>	
	第1章 小平市都市計画マスタープランとは	5件
	第2章 小平市のまちの現況	3件
	<b>第2部 まちづくりを取り巻く状況と見直しの視点</b>	
	第1章 小平市のまちづくりの経緯	2件
	第2章 小平市のまちづくりを取り巻く状況	1件
	第3章 マスタープランの見直しの視点	7件
	<b>第3部 全体構想と実現に向けた取組</b>	
	第1章 全体構想	9件
	第2章 まちづくりの目標に基づく戦略	12件
	第3章 まちづくりの方針〈部門別〉	40件
	<b>第4部 地域別構想</b>	35件
	<b>第5部 都市計画マスタープランの推進</b>	15件
	その他	23件

3 意見に対する対応状況

反映する（一部反映する含む。）	10件
反映しない	15件
反映済み（一部反映済み含む。）	41件
参考意見	86件

#### 4 意見等への対応

##### (1) 「反映する（一部反映する含む）」（10件）

###### ■ 第1部 はじめに

###### 第2章 小平市のまちの現況

※「ご意見等」で示されているページ番号は、実際と異なる場合がございますが、原文のままに掲載しております。

番号	ご意見等	検討結果	対応
1	○P4 1位置と地形 市域は東西 10km、南北 4km ⇒ 9.2km、4.2km と下一桁位でも良いのでは。	ご意見の内容につきましては、反映させていただきます。	反映する
	旧	新	該当ページ
	市域は東西約 <u>10</u> km、南北約 <u>4</u> km で	市域は東西約 <u>9.2</u> km、南北約 <u>4.2</u> km で	P4

###### ■ 第2部 まちづくりを取り巻く状況と見直しの視点

###### 第3章 マスタープランの見直しの視点

番号	ご意見等	検討結果	対応
2	○P21 緑の維持・保全 平成27年4月に都市農業振興基本法が制定され、都市農業の方向性が180度変わったことを基に、どのように都市農業を発展させていくかを具体的に述べて頂きたいと思います。独自の税制にも触れるのではと期待しています。	本マスタープランにおける農地の保全につきましては、「まちづくりの目標 2 “みどり”を感じられるまちをつくる」の戦略1や「まちづくりの方針<部門別>」の「4 水と緑のまちづくりの方針」示しており、具体的な今後の都市農業の方針につきましては、個別計画に委ねられるものと考えておりますが、「都市農業振興基本法」の制定を踏まえることについては、記載を追加いたします。	一部反映する
	旧	新	該当ページ
	—	また、平成27年4月の「都市農業振興基本法」の制定により、国において農業振興基本計画が策定され、都市農地は貴重な緑地として明確に位置づけられるなど、農地の保全に向けては、都市計画の視点からも検討が必要となっております。	P14

	旧	新	該当ページ
		<p>なお、今後の都市農地については、都市農業振興基本法の制定による国や東京都の動向も踏まえながら、市の農業振興施策と連携して、農地の維持に向けた方策を検討していきます。</p>	P49
番号	ご意見等	検討結果	対応
3	<p>意見 2. 第 2 部第 3 章マスタープラン見直しの視点③水と緑のあるまちづくりに向けた見直し P21</p> <p>「小平の風景であるみどりを維持・保全し、またこれらのみどりを活かしたまちづくりに向けた見直しをします」について小平の風景である「農地を含むみどり」などの農地を入れて下さい。</p>	<p>「みどり」と表現しているものは、雑木林、屋敷林、農地、用水路、河川、住宅地の植栽地、公的空間の植栽地などの緑地空間に加えて、良好な景観地、歴史性、市民生活との関わりなど、多くの価値観を持つ概念として捉えておりますことから、このことについて本マスタープランの中で説明を加えることで対応いたします。</p>	反映する
	旧	新	該当ページ
	—	※「用語集」で、「みどり」の内容について解説。	—

### ■ 第 3 部 全体構想と実現に向けた取組

#### 第 1 章 全体構想

番号	ご意見等	検討結果	対応
4	<p>1、28p みどりの拠点に以下を追加する。</p> <p>中島町にあるこもれびの湯の北側にある樹林地（都保有？）、上水新町一丁目、鈴木町一丁目、小川町一丁目上水新町一丁目の雑木林特別緑地保全地区、小平霊園、最後に「市内の緑を確保するために緑債を検討します。」を追加する。</p>	<p>「将来の都市構造」においては、市の骨格となるまとまったみどりを拠点として位置づけておりますので、特別緑地保全地区は含めておりません。</p> <p>中島町の樹林地につきましては、じょうすいこばし付近の一部と考えておりますので、将来都市構造図の中でお示しするよう変更いたします。</p> <p>なお、都立小平霊園につきましては、既にみどりの拠点に位置付けております。</p> <p>また、「緑債」に関する文言につきましては、「将来の都市構造」に記載する事項</p>	一部反映する

		ではございませんので、参考意見とさせていただきます。	
	旧	新	該当ページ
	—	※「将来都市構造図」の東大和市駅付近の「みどりの拠点」を拡張。	P30

### 第3章 まちづくりの方針〈部門別〉

番号	ご意見等	検討結果	対応
5	<p>&lt;水と緑の保全と活用の際に考慮していただきたい点について&gt;</p> <p>・”みどり”の種類にもいろいろあると思います。新たなみどり作りや、運動できる公園づくりも大切ですが、新たに整備して植えられた”みどり”では原風景の雑木林などに変えられないことも意識して各種”みどり”のバランスを考えた整備をお願いします。子どもたちが土を触ったり生き物を観察したり、落ち葉の循環やいろんな種類の木が共存しているのを見て学んだり、そういう感覚を全身から感じることでできる場所は、心の成長にとってとても大事です。気軽に安全に立ち入れる雑木林の保全などもお願いします。目標2などに、みどりならなんでも良い分けでなく、“各種のみどりを活かしながら”とわかるとより伝わるかなと思います。</p>	<p>本マスタープランにおいて、「みどり」と表現しているものは、雑木林、屋敷林、農地、用水路、河川、住宅地の植栽地、公的空間の植栽地などの緑地空間に加えて、良好な景観地、歴史性、市民生活との関わりなど、多くの価値観を持つ概念として捉えておりますことから、このことについて本マスタープランの中で説明を加えることで対応いたします。</p>	一部反映する
	旧	新	該当ページ
	—	※「用語集」で、「みどり」の内容について解説。	—

■ 第4部 地域別構想

番号	ご意見等	検討結果	対応
6	<p>○70p ③民間活力を活かした新たな拠点づくり</p> <p>再開発についても幹線道路の整備についても、「周辺のみどりとの調和に配慮しつつ」とありますが、「配慮」という言葉は弱いです。「調和を図りつつ」と提案します。</p> <p>なお、景観という点では、高層の建物はみどりとの調和を破壊します。再開発の手法として、低層低容積再開発、身の丈にあった再開発というものが最近提案されています。市として将来を見据えた適切なアドバイスを望みます。</p> <p>また、小平市では、開発については、開発区域から 30mまたは 50mの範囲内に居住している「周辺住民」しか説明会に参加できず他の市民は意見も言えません。</p> <p>たとえば、狛江市まちづくり条例では、周辺住民だけでなく「近隣市民および市民」に意見を言う権利があります。小平市の「周辺住民」対象の「ガイドブックー開発事業に関する説明を受けるにあたってー」を見ても、向いている方向が、「開発ありき」という感じを受けます。市民参加のまちづくりという視点が薄いと感じます。</p> <p>市が協力して進める再開発事業であれば、再開発区域の住民とそうでない住民との接点をもっとあっても良いのではないのでしょうか。改善を希望します。</p>	<p>市街地再開発事業につきましては、都市再開発法に基づく整備事業となっており、ご意見でございます「小平市開発事業における手続及び基準等に関する条例」などに基づく開発事業とは異なるものとなっております。小平駅北口地区再開発事業につきましては、「小平駅北口地区市街地再開発準備組合」が中心となって検討を進めております。市としましても、近隣住民への周知など、事業の推進に向けた支援を行ってまいります。</p> <p>なお、「調和を図りつつ」への修正につきましては、ご意見を反映させていただきまします。</p>	一部反映する
	旧	新	該当ページ
	小平駅北口地区では、平成 27 年 9 月に市街地再開発準備組合が設立され、市街地再開発事業の実現に向けた検討が進められていることから、引き続き事業化の	小平駅北口地区では、平成 27 年 9 月に市街地再開発準備組合が設立され、市街地再開発事業の実現に向けた検討が進められていることから、引き続き事業化の	P70

	<p>促進を図ります。さらに、都立小平霊園などの周辺のみどりとの<u>調和に配慮しつつ</u>、商業・業務機能や住宅機能等の集積によるにぎわいの創出、駅前広場の整備による利便性の向上を図るとともに、災害に強い自立した拠点の形成をめざします。</p>	<p>促進を図ります。さらに、都立小平霊園などの周辺のみどりとの<u>調和を図りつつ</u>、商業・業務機能や住宅機能等の集積によるにぎわいの創出、駅前広場の整備による利便性の向上を図るとともに、災害に強い自立した拠点の形成をめざします。</p>	
	<p>優先整備路線に選定された小平駅久留米線（小平 3・4・19 号線）整備は、小平グリーンロードや都立小平霊園のみどりとの<u>調和に配慮しつつ</u>、歩行者や自転車利用者の通行に配慮した道路整備を東京都や近隣市との連携により進めます。また、市街地再開発事業により拠点性の高まる小平駅北口地区へのアクセス性を高めるとともに、周辺市街地の防災性、安全性の向上に資する整備を進めます。</p>	<p>優先整備路線に選定された小平駅久留米線（小平 3・4・19 号線）整備は、小平グリーンロードや都立小平霊園のみどりとの<u>調和を図りつつ</u>、歩行者や自転車利用者の通行に配慮した道路整備を東京都や近隣市との連携により進めます。また、市街地再開発事業により拠点性の高まる小平駅北口地区へのアクセス性を高めるとともに、周辺市街地の防災性、安全性の向上に資する整備を進めます。</p>	P70
番号	ご意見等	検討結果	対応
7	<p>意見 15</p> <p>P71「駅周辺には比較的若い世代が居住している傾向があるものの、高度利用が図られていないなど駅前としての優位性を活かしきれていないため、若い世代が求める駅前における住宅ニーズを十分に満たしていない状況があります。」</p> <p>これは、H26、H27 無作為抽出アンケートからも、若い世代の駅前における住宅ニーズがあることは読み取れません。一般論としてもあまり聞かない話です。根拠があるなら根拠を示して記載して下さい。根拠がないなら、かくべきではありません。削除を希望します。</p>	<p>小平駅周辺地区の状況につきましては、小平駅北口地区の現況調査や市民アンケート調査などを踏まえて記載しておりますが、ご指摘の文章につきましては、本来示すべき趣旨と異なる内容に読み取れることから、一部記載を変更します。</p>	一部反映する
	旧	新	該当ページ
	<p><u>駅周辺には比較的若い世代が居住している傾向があるものの、高度利用が図られていないなど駅前としての優位性を活かしきれていないため、若い世代が求め</u></p>	<p><u>駅利用者は、市内では比較的若い世代が多い傾向があるものの、都市機能の集積を図る余地がないなど、駅前としての優位性を活かしきれていないため、若い</u></p>	P71

	<u>る駅前における住宅ニーズを十分に満たしていない状況があります。</u>	<u>世代に魅力あるまちづくりが求められています。</u>	
番号	ご意見等	検討結果	対応
8	<p>小平駅北口周辺の開発については、平成 27 年度までは都市計画道路事業による整備を計画されていました。しかし、平成 27 年に都市再開発法第 2 条の 3 の第 2 項地区?として、東京都の「都市再開発の方針」に定める促進地区に指定されています。また、同年に小平駅北口地区市街地再開発準備組合が設立しました。この二つの大きな変化について、再開発対象予定区域内に住む土地所有者には事前説明も無いまま、市と準備組合関係者の一方的な考えにより進められています。このことは「信義誠実の原則」に反する重大問題であることは明白です。更に「都市計画マスタープラン改定」(素案)では(P71~)小平駅北口地区市街地開発事業は組合施行であり、現時点では組合設立のための東京都への認可申請に必要な要件が整っていないにも関わらず、あたかも事業が実現するかのような文体で構成されています。駅前にタワー型の共同住宅を建設することは何時、誰が決めたのですか。</p> <p>今、市がすべきことは、都市計画法第 12 条関連に規定されている、小平駅北口周辺(都計道 3・4・14.3・4・19 を含む 10ha 程)の整備・開発・保全の方針を定める地区整備計画を策定することです。</p>	<p>「都市再開発の方針」につきましては、平成 27 年 3 月に、東京都が都市計画法に基づき、公聴会や案の縦覧などの必要な手続きを経て定めたものです。また、「小平駅北口地区市街地再開発準備組合」は、平成 27 年 9 月に、設立総会において準備組合の設立が承認され発足したものです。</p> <p>準備組合設立前には、準備組合の前身である再開発協議会から再開発区域周辺のみなさんに対して、再開発の必要性、今までの取組状況、今後準備組合を設立していくことなどを説明したお知らせを配布しております。</p> <p>なお、建物の形状につきましては、準備組合を中心に進められている具体的な事業計画の内容が決まっておきませんので、一部表現を変更いたします。</p> <p>地区計画につきましては、事業の進捗状況にあわせて、今後策定してまいります。</p>	一部反映する
	旧	新	該当ページ
	小平駅北口地区は、駅周辺を含めた地域活性化や周辺の道路整備に伴う駅への交通利便性の向上を図るため、 <u>駅前の高度利用による土地の有効利用を進め、タワー型の共同住宅に商業施設を導入し、</u>	小平駅北口地区は、駅周辺を含めた地域活性化や周辺の道路整備に伴う駅への交通利便性の向上を図るため、 <u>駅前の高度利用により住宅や商業施設の共同化やオープンスペースの創出など土地の有効</u>	P72

	自動車や自転車の駐車を設置するなど、市街地再開発事業と一体のまちづくりを推進します。	利用を進め、自動車や自転車の駐車を設置するなど、市街地再開発事業と一体のまちづくりを推進します。	
番号	ご意見等	検討結果	対応
9	<p>意見 14 小平駅周辺について</p> <p>P70 「小平駅北口地区では、平成 27 年 9 月に市街地再開発準備組合が設立され、市街地再開発事業の実現に向けた検討が進められていることから、引き続き事業化の促進を図ります。」</p> <p>再開発準備組合は、地権者の集まりですが、民間の任意団体です。なぜ民間の任意団体の計画が、そのまま、市のマスタープランに記載される再開発の方針になるような記載なのでしょう？H21 年から、H27 年まで、16 百万円の市の予算が検討に使われています。</p> <p>また、小川駅西口のように、事業者によって採算があわないと判断した場合、また再検討と時間と費用が、無駄になります。H27 の無作為抽出アンケートの自由記述にあるように小平駅北口は再開発の要望は強いのです。話を大きくする案 1 本ですすめて、失敗した場合のリスクは大きいです。</p> <p>小平霊園のある駅、静かな雰囲気を楽しみたいと思う市民感情もあるのではないですか。なぜ、民間活力をつかった市街地再開発事業 1 本ですすめているのでしょうか？初期段階から、再開発エリアの地権者および、周辺の市民へのアンケートをとるなどニーズの洗い出しをしっかりと行って方向性を決めるべきでした。</p> <p>市民に再開発準備組合で検討されている市街地再開発事業案が市民にまったく公開および、意見をもとめる過程がないまま、マスタープランに方針がきまったかのような記載がされることが問題です。</p> <p>修正案として以下を要望します。</p>	<p>小平駅北口地区につきましては、建物が密集している上、道路幅が狭く、行き止まりやクランク状となっているなど、多くの課題を抱えていることから、地域の人を中心とした勉強会やアンケート、現況調査などを行いながら、まちづくりに関する協議を重ねてきております。その結果、市街地再開発事業によるまちづくりの方向性が出され、市としても当該地区においては再開発事業が適していると考えております。</p> <p>なお、再開発事業に関する具体的な事業計画案につきましては、現在準備組合において検討をしているところで、建物の形状などについては一部修正いたします。</p>	一部反映する



	「小平駅北口地区では、平成 27 年 9 月に市街地再開発準備組合が設立され、市街地再開発事業の実現に向けた検討が進められているが、再開発準備組合の案を住民に説明し住民の意見も取り入れて、柔軟な対応で再開発の促進を図ります。」		
	旧	新	該当ページ
	小平駅北口地区は、駅周辺を含めた地域活性化や周辺の道路整備に伴う駅への交通利便性の向上を図るため、 <u>駅前的高度利用による土地の有効利用を進め、タワー型の共同住宅に商業施設を導入し、自動車や自転車の駐車場を設置するなど、市街地再開発事業と一体のまちづくりを推進します。</u>	小平駅北口地区は、駅周辺を含めた地域活性化や周辺の道路整備に伴う駅への交通利便性の向上を図るため、 <u>駅前的高度利用により住宅や商業施設の共同化やオープンスペースの創出など土地の有効利用を進め、自動車や自転車の駐車場を設置するなど、市街地再開発事業と一体のまちづくりを推進します。</u>	P72

■ その他（全般に関わること等）

番号	ご意見等	検討結果	対応
10	シビックゾーンなどと一般的でないわかりにくいお役所ことばを使用しないでほしい。もっと平易で正しい日本語を使用していただきたい。	「シビックゾーン」の示す内容につきましては、用語の解説を付すことで対応いたします。	反映する
	旧	新	該当ページ
	—	※「用語集」で、「シビックゾーン」の内容について解説。	—

(2) 「反映しない」、「反映済み（一部反映済み含む）」、「参考意見」（計142件）

■ 第1部 はじめに

第1章 小平市都市計画マスタープランとは

番号	ご意見等	検討結果	対応
11	6. 都市計画（まちづくり）は長期計画の柱 並行して検討が進んでいる、産業振興計 画、都市農業振興計画、公共施設マネジメン トを都市計画ときちんと関係付けると、各計 画の実現性が担保されると思う。都市計画マ スタープランの位置づけを再考すべきだ。	都市計画マスタープランは、都市計 画法に基づき、「都市計画に関する基 本的方針」を示すもので、本マスター プランの第1部の「第1章 小平市都 市計画マスタープランとは」の「2 位 置づけ」のとおり、さまざまな市の計 画と整合を図って策定しております。	反映済み
12	○P1、37、41 「1改訂の背景と目的」 「小平市民等提案型まちづくり条例」は6 年間一度も利用されていないと聞いていま す。内容を見ると、市民の意見を吸い上げる 手段としてはハードルが高すぎると思いま す。利用しやすい条件に訂正して頂きたいと 思います。使おうと思った市民も居ます。そ の市民の意見を聞いてください。	「小平市民等提案型まちづくり条 例」は、市民、事業者、市の責務を示 したうえで、市民が主体となって土地 利用に関する計画の策定などに向けた活動の仕組みを定めたもので、仲間 をつくって「地区まちづくり協議会」 を設立し、地区のまちづくりルールな どをつくることのできるものです。今 後も引き続き、まちづくりセミナーな どにより、本条例の周知を図るととも に、積極的な活用促進を図ってまいり ます。	参考意見
13	<文章、構成の伝わりやすさについて> 1 ページ目の一番最初か表紙に、まず都市 マスに興味を持ってもらえる文章を入れて はいかがでしょうか。都市マスとは何か、都 市マスが市民の生活にどのように関わって いるのか、ここに書かれた内容がどんな影響 を及ぼすのか、市民生活の何を定めているの かが、一番最初に具体的にイメージできるこ とで、次のページから興味を持って読み進め ることができると思います。前回より、図や 構成はぐんと読みやすくなったと思うので すが、それでも多くの市民には内容に興味が わきにくく量も多いので。	本マスタープランの第1部第1章で は、改定の背景や目的、他の構想や計 画などとの位置づけや役割について 整理しています。その中で、図を導入 し、簡潔な文章とするなど、極力わか りやすい構成となるよう、検討を重ね てまいりました。 冊子の作成にあたりましては、いっ そう親しみやすいマスタープランを めざし、さらなる工夫を図ってまいり ます。具体的には、表紙において、小 平におけるまちづくりのイメージに つながるイラストを使用します。ま	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>3の『役割』まで読んでも、まだ具体的にイメージしづらく、詳しくない者にはわかりにくい印象です。</p> <p>なるべく簡単に、とっかかりは全市民が、10年後を担う中学生でも興味を持てるくらいの分かりやすさで書いてあげて欲しいです。お願いします。</p>	<p>た、紙面全体として、コラムの導入やデザインの調整などにより、読みやすい構成にいたします。</p> <p>また、手に取りやすいマスタープランの概要版を示すことで、マスタープラン全体の理解を深めるための一助となるものと考えております。</p>	
14	<p>他の計画との関連や範囲分けが把握しにくいので、本文に都市マスにのってるけど他の計画で主に定める項目（農地や観光など？）の記述が出たら、(OO 計画に関連)など、書いていただくと助かります。都市マスだけでなく、他の計画にも関心が高まる効果もあると思います。(p2 の図で”市の各分野の計画”にのってるような計画など)</p>	<p>都市計画マスタープランは、「都市計画に関する基本的方針」を示すものですが、その性質上、さまざまな分野の計画などと多面的に関連しております。そのため、逐次各種計画などを引用することで、文章構成を複雑にするだけでなく、その記述の意味合いに誤解の生じる可能性もあると考えられますことから、ご意見につきましては参考とさせていただきます。</p>	参考意見
15	<p>○2p 小平市都市計画マスタープランの位置づけ</p> <p>現在のままの計画の踏襲であるなら、マスタープランを作成する意味は薄いと感じます。</p> <p>「さまざまな計画などとの整合を図り、都市の将来像とその実現までの道筋を示すものです。」とありますが、もう一步踏み込んで以下のように提案します。</p> <p>「さまざまな計画などとの整合を図りつつ、小平市ならではの都市の将来像とその実現までの道筋を示すものです。」</p>	<p>本マスタープランにおいては、計画全体を通して「小平らしさ」を踏まえているため、ご要望の箇所に文言の加筆をすることは考えておりません。</p>	反映しない

## 第2章 小平市のまちの現況

番号	ご意見等	検討結果	対応
16	<p>1. 分析やシナリオの検討が不十分ではないか？</p> <p>人口減少・高齢化に対応したまちづくりの必要性を訴えているが、計画づくりの前提が</p>	<p>都市計画マスタープランは、「小平市長期総合計画」および東京都の「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」に即して定められるもので、小平</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>国や東京都と同様のマクロ的な見通しになっていて、小平市の地域特性や今後の努力を反映していない。過去データの提示だけで、分析や予測がない。東京都の都市計画に小平市はほとんど記述されておらず、見通しは厳しいと思う。市民に状況を理解してもらうためには、複数のシナリオ（人口推計、産業・都市農業・商業計画、歳入・歳出計画、ロードマップで構成）の比較検討の結果として選んだ案の提示が必要だ。</p>	<p>市におけるまちづくりを進めるうえでの指針として、さまざまな計画などとの整合を図り、都市計画の観点から都市の将来像とその実現までの道筋を示すものです。そのため、本計画においては、複数のシナリオの比較検討などは考えておりません。</p>	
17	<p>1 はじめに・現状と課題</p> <p>小平市都市計画マスタープラン（以下、都市マス）の目標像は、住民や企業行政の要求にもとづいた、安全で快適な都市生活と効率的な都市活動の将来像を作る、こだいらの「都市開発」のことです。</p> <p>●小平市に関していえば、都市のあり方・理念、将来における人口・産業・土地利用などの規模や構成、市民や企業（事業者）に対して保証すべき都市生活・活動の目標像です。この目標像には、実現可能で具体的に描かれているのが「都市マス」でありだれしもの市民が思っていることです。</p> <p>○たしかに、道路・公園・上下水道などの建設・整備など公共的事業の実施・土地利用に関する規制や技術的な面が多いと考察されます。</p> <p>●そこで、①都市マスと市民の出会い ②都市計画をみんなが知るためには ③何を計画するのか等、市民に分かりやすく説明することです。</p> <p>2 都市マスを取り巻く状況と視点</p> <p>「どういう都市をつくるべきか」その計画目標と経過について、小平市の都市形態をふまえて、現時点での施策が示されています。</p> <p>□都市マスがめざすのは、①快適な都市生活 ②安全で効率的な都市生活の実現です。</p>	<p>都市計画マスタープランは、「小平市長期総合計画」および東京都の「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」に即して定められるもので、小平市におけるまちづくりを進めるうえでの指針として、さまざまな計画などとの整合を図り、都市計画の観点から都市の将来像とその実現までの道筋を示すものです。</p> <p>本マスタープランにおいては、第2部で示しております「マスタープランの見直しの視点」を踏まえ、全体構想における「まちの将来像」、「まちづくりの目標」、「将来の都市構造」、また地域別構想等において、当面の目標として今後10年間のまちづくりの方針を示しております。</p> <p>これらの実現に向けては、都市計画に関わる事業ばかりでなく、さまざまな分野を横断した取組みが必要であり、また、第5部で示しました参加と協働によるまちづくりが必要であると考えております。</p> <p>今後、本マスタープランの実現に向けた具体の施策・取組み等を進めるにあたって、いただきました個別のご意見等につきましては、参考とさせていただきます。</p>	一部反映 済み

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>●そこで、小平市の現状と課題をふまえ、都市計画（プランニング）とは何か、改定のまとめに示されたとおりの考えばかりではなく、「こだいら」の都市とは何か、その地区の特徴と多様性の実現を期することです。</p> <p>例えば「都市マス」に関連して、従来からの「居住者・※引っ越してきた」方々の要求と、土地の有効活用・地域の「活性化」を求める土地所有者（地権者）層の要求は、相互に矛盾しています。</p> <p>※小平市が住みやすいということで引っ越してきた方々。（プチ田舎）に関連して「文化交流」があり「暮らしやすく、緑とくつろぎ空間」があり、都会と田舎の両方のよさが共存している地域ということです。</p> <p>□要求の矛盾というのは、多様な人びと・企業による多様な都市活動により起こるのではなく、1人の人、一つの企業（事業者）の要求の中にも、立場の違いからくる矛盾があるということです。小平市でも、多様な人や多様な企業が多様な価値基準で活動しており、計画をめざす都市と都市生活を視点に、課題を推進することです。</p> <p>3 全体構想の取組と戦略</p> <p>都市マスの理念・将来像と戦略課題などは、実際どうやって望ましい都市生活、都市活動を実現し、運営するのか、いわば小平市の都市計画の施策・方法論について考察することです。</p> <p>●都市計画を進める手順・ステップとしては</p> <p>①都市「こだいら」に住まいに働く人びと、あるいは、そこで活動する企業の要求</p> <p>②目標とする都市生活・都市活動を実現し得る小平市像を想定する</p> <p>③「こだいら」の都市像実現に向けて主体的に計画をたてる</p>		

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>④都市の計画の（目標・意図）に沿って、都市マスを運営する</p> <p>⑤計画が、その目標・意図・予定等の進行管理を行うことです</p> <p>要は、小平市「都市空間形態」の将来像を具体的に描くことです。</p> <p>4 都市マスの整備方針・将来像</p> <p>まちづくりの部門別整備方針は、都市計画の計画目標像として、小平市の将来（計画期間後）の、あるべき、安全で快適な都市生活像などが明らかにされること、それを可能にする具体的に策定される案です。</p> <p>これを、都市（小平市）全体については、「将来都市構造図・良好な住まい作の方針図」などにより、地区別の場合は主な課題はこれからの考え方イメージが示されました。</p> <p>例えば、小平市の交通政策、土地利用状況から、安全・快適・効率的な取組課題等です。</p> <p>●関連して、「都市マス」の計画策定過程において、住民が参加することです。</p> <p>その計画がまとめられてゆく過程で、将来の都市生活や活動像は、現実の小平市の物的な条件や実現可能性との関係で修正を迫られたことがありますので、決定過程への参加は不可欠です。</p> <p>その意味で、住民は小平市都市計画の知識を必要としますし、専門家や行政関係者たちは、分かりやすい形で、都市マス改定案の策定過程を住民に示す必要があります。</p> <p>また、暗号化された文章化された都市計画図だけではなく、イメージプランや模型の形で都市マスの内容を分かりやすく示す努力が必要です。</p> <p>5 まとめ</p> <p>「都市マス」は、従来からの価値観をかえ「挑戦」しようというものです。</p> <p>そこで次のような意見を述べます。</p>		

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>①市民も自分自身の問題として考えなければならぬ感触をもつだろうと、新しい時代の「まち」は小平市民の自覚と責任でつくってゆく・それを呼び越す。</p> <p>②ハードとソフトを含めた総合的な「まち」を整え、過程や方法をトータルに考える。 ※関連してイノベーション／リノベーションを推進する。</p> <p>③地域（住民・行政・事業者）が自ら主体性を持ち、小平市の地域文化、個性ある風土を大切にして、誇りと愛着をもてる「まち」をつくってゆく。</p> <p>④安心して生活できる「住むに値するこだいらを目指し」質的な価値をつくりだす。</p> <p>⑤互いに個性や自由を尊重し、新しい社会と仕組み、こだいらの「都市マス」をつくる。</p> <p>⑥住民全体が共同体の一員として生活していることを自覚し、地域への責任をもって参加し、共働を担う「ヒトづくり」をすすめる。</p> <p>⑦理念や建前だけでなく、より「実践的」なまちを目指す。</p> <p>●「都市マス」づくりは、理屈や理念にとまらず、なんらかの実践を伴う意味が込められています。「まちづくり」には、市民の実践的な行動を、身近な単位から考え、そこをよりよくしてゆくことです。</p> <p>市民が求めている「都市マス」や行政サービス（公共施設）とは何か…？</p> <p>どのようにすれば、利便性を高めることができるか…？</p> <p>●「イノベーション」を起こすためには、新たな都市マスの施策を検討する必要ということです。</p> <p>□要は、市民の効用を高める方法を考え、これまでにない都市ビジョンの決定法を生み出し、また、市民の都合に合わせて「都市マス」の形態を変えたりし、どんな戦略がいいのか、小平市の置かれた現状→課題を適切に組み合わせて、イノベーションを成功に導く</p>		

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>可能性高まることにつながります。</p> <p>実践面では、日常的な取り組みやすいことを自分たちにとってよりよくしていく努力が「小平市都市計画マスタープラン」の基礎です。</p> <p>※3・2・8/3・3・3号線等の周辺のまちづくりの推進</p> <p>①都市計画道路の整備にあわせて、主要幹線道路のまちづくりを生かした、安全で住みやすい小平の住宅環境の形成に努める。</p> <p>②小平駅北口・小川駅西口周辺まちづくりの推進。</p> <p>③土地利用政策の転換と、適切な利用の誘導。</p> <p>④空き家・空き地の適正管理・利用活動。</p> <p>⑤現状の土地利用に即した土地利用の見直し。</p> <p>⑥住居専用地域における住環境の保全。</p> <p>⑦地域環境や自然環境の保全に対応したまちづくり。</p> <p>「都市マス」の素案に示された中間のまとめは、提案という形で示されました。</p> <p>その中身ですが小平の立地も含めほぼ内容は決定されており、あとは、市民や関係者に説明して理解を求め、実行に移すというパターンです。</p> <p>これら施策の中身について、パブコメを実施するものの、住民の意見を取り上げるためだけでなく、意見を聞いて住民の理解を深める目的なので、現実を踏まえた(対策・解決案)実効の進行管理を推進していくことです。</p>		

## ■ 第2部 まちづくりを取り巻く状況と見直しの視点

### 第1章 小平市のまちづくりの経緯

番号	ご意見等	検討結果	対応
18	1 マスタープランの基本理念 小平市は近年は東京のベッドタウンとして宅地化が進み居住者が増加している。転入	本マスタープランでは、第2部「第1章 小平市のまちづくりの経緯」の「1 まちのなりたちとまちづくりの	反映済み



番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>者にとって、小平の歴史を知る人はほとんどいないだろう。まずは小平市の歴史を知り、そのレガシーから基本理念とその背景を明らかにしないと、なぜこのようなプランが提案されているか理解できないだろう。基本理念を示すことが多くの市民にとって必要なことだと考える。</p> <p>小平の歴史は1654年の玉川上水の開削に始まる。それ以前は、江戸城下町を造成するために青梅の石灰を江戸に運ぶための青梅街道が作られ、小川が宿場町になっていた。しかし、実質的な始まりは「上水」と考えられる。</p> <p>小平地域の開発は、その後享保年間まで下り、幕府の新田開発の奨励により上水から用水(分水)を引き込むことにより一気に進化した。この上水と用水、さらに武蔵野の林、農家と畑が原風景と言える。このような歴史認識から、今一度基本理念を明確にすべきと思う。</p>	<p>経緯]、「第2章 小平市のまちづくりを取り巻く状況」の「3 小平市のまちの主な特性と課題」などで、市のなりたちや歴史、背景などについて記載しております。</p>	
19	<p>○素案 12p 前マスタープランまでのまちづくり 緑の保全と創造</p> <p>「・・・風致地区内の緑や農地(生産緑地)は、宅地化の進展により減少しつつあり、・・・」とあります。風致地区に指定されていた青梅街道は、一部指定を見直す方向です。また、農地保全を謳いながら、農地は減る一方です。これは時間とお金と労力をかけてマスタープランを作成しても、必ずしも機能を発揮できるわけではないことを如実に物語っています。上記の例は、市有地の緑等に関して行政は干渉できないという現実も示しています。ならば、都も含め行政が所有している緑を最大限生かすこと、沿道の緑や農地を含む緑を残すために行政所有の緑を確保し、市民も一緒になって維持することが必要です。</p>	<p>「まちづくりの方針&lt;部門別&gt;」の「水と緑のまちづくりの方針」で、行政が所有している緑はもちろん、市民が所有する緑・農地の保全に向けた取組みの検討について示しております。</p>	一部反映 済み

## 第2章 小平市のまちづくりを取り巻く状況

番号	ご意見等	検討結果	対応
20	<p>意見 17 第 2 部 第 2 章 小平市のまちづくりを取り巻く状況</p> <p>■計画的な道路ネットワークの形成 P19 について</p> <p>「幹線道路の整備は、渋滞の解消をはじめ、歩車道分離による歩行者や自転車利用者の快適性の向上、沿道緑化による緑の創出、延焼遮断機能としての防災性の向上、沿道利用の促進によるにぎわい創出など多くの効果をもたらします。</p> <p>しかし、本市の都市計画道路の整備率は 42.6%（平成 28 年 3 月現在）にとどまっており、多摩地域の都市計画道路の整備率（60%程度）と比べると、道路ネットワークの形成といった観点から、整備推進は重要な課題となっています。また、市内には鉄道駅が多い反面、線路が張り巡らされていることから、踏切による渋滞が発生し、円滑な交通ネットワークの妨げとなっています。」おっしゃることはわかりますが、第四次事業化計画においてこの 10 年間で優先整備路線となっていない道路ネットワークと、みどりのネットワークが交差することについてどのように考えているのでしょうか？ユネスコのプロジェクト未来遺産に登録された玉川上水と、交差する未整備、未着手の都市計画道路 3・4・22 や 3・4・20 などについては、この 10 年間で、社会的状況によって変化によって、見直しする余地を残しておくことをご検討頂けませんか？東京都の説明では、第 4 次事業化計画でも、見直しをしたことになっており、その結果、小平では見直す計画がひとつもなかったというのが現状です。但し、10 年先のはなしであれば第 4 次事業化計画の検討結果を否定するわけではないので、決して東京都の上位計画と矛盾する内容ではないはずです。上記記述のあと</p>	<p>優先整備路線以外の都市計画道路のあり方については、「2 道路・公共交通ネットワーク等の方針、(1) 道路ネットワークの形成、①広域ネットワークを形成する都市計画道路整備を進めます（幹線道路の新設）」において、「なお、優先整備路線以外の都市計画道路については、地域のまちづくりにあわせた事業化の検討や施行主体を明確にするなど、東京都と連携しながら、今後の都市計画道路のあり方について検討していきます。」と記載しておりますので、ご要望の文言の加筆につきましては考えておりません。</p>	<p>反映しない</p>

番号	ご意見等	検討結果	対応
	に、以下を追加することは出来ませんか？ 「一方、未整備の都市計画道路には、水とみどりのネットワークと交差するものなど課題もあります。今後 10 年間の社会状況の変化の中で、市民の意向をふまえながら、東京都、近隣市とも協議して、10 年後以降に優先的に整備すべき路線、見直すべき路線等を検討して、第五次事業化計画の際に東京都および、市町村と調整します。」		

### 第 3 章 マスタープランの見直しの視点

番号	ご意見等	検討結果	対応
21	2. 10 年前の方針と同じ？？？（21 ページ マスタープランの見直しの視点） 「前マスタープランに示された「まちづくりの理念」「まちづくりの目標」「まちづくりの方向」は、今後 10 年の本市を展望しても、大きな方向性の変化はないと考えます。」とあるが、社会環境の変化と各種指標が減少傾向にある説明からは唐突すぎる結論だ。今後 10 年間に目覚ましい進展が見込まれ、都市計画や産業に多大な影響を及ぼす可能性がある ICT（情報通信技術）の活用についての記述が全くないのも理解に苦しむ。「大きな方向性は今までどおりです」には違和感がある。	現マスタープランにおいて示されている「理念」、「目標」、「方向」（便利で人にやさしい交通環境、防災・防犯、駅を中心とした生活圏の形成、良好な住環境の維持、緑の保全と創造、連携と協働のまちづくり推進など）、は、今後も変わらないものと考えております。 なお、本マスタープランでは人口減少等の新たな課題を踏まえ、さまざまな視点を考慮した将来に渡って持続可能なまちづくりについても示しております。 ICT の活用等の具体の施策・取組み等につきましては、今後、他の分野の計画等の参考とさせていただきます。	参考意見
22	○P22 マスタープラン見直しの視点 「今後 10 年の本市を展望しても、大きな方向性の変化はない」としていますが、理念はともかく目標・方向においては、今まで経験したことの無い人口減少が再来年からではじまることを考慮した場合、あらゆる領域で縮小する時代に入る現実の危機的状況を、正確に捉えて頂きたいと思えます。少なくとも捉えているとは感じられないと思	現マスタープランにおいて示されている「目標」、「方向」（便利で人にやさしい交通環境、防災・防犯、駅を中心とした生活圏の形成、良好な住環境の維持、緑の保全と創造、連携と協働のまちづくり推進など）、は、人口減少社会においても変わらないものと考えております。 なお、本マスタープランでは、人口	一部反映 済み

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>ます。同 P の 10 行目と矛盾していると思います。</p>	<p>減少等の新たな課題を踏まえ、さまざまな視点を考慮して「マスタープランの見直しの視点」を設定しております。</p>	
23	<p>意見 1. 第 2 部第 3 章マスタープランの見直しの視点について (P21)</p> <p>「まちづくりの理念」「まちづくりの目標」「まちづくりの方向」については、今後 10 年の本市を展望しても、大きな方向性の変化はないと考えます、について「大きな方向性の変化はない」とはどういう見方ですか？第 2 章までのデータを分析で人口減少は避けられない、22%を越えた 65 歳以上の老年人口がさらに増えるという状況で、空家・空き店舗の増加、単身世帯の増加によって、税収減など、不可避な問題が起こるという状況で、過去 10 年間と方針が同じ分けがありません。</p> <p>まちづくりの方向性を、どうしても必要な開発にしぼった形で投資することや、ハード中心からソフト中心への転換、新規開発から保守への方向転換が必要なのではないのでしょうか？基本的なまちづくりの方向が過去 10 年と変化はないとは、あまりに惰性で、横着な方向性です。見直しをお願いします。</p>	<p>現マスタープランにおいて示されている「目標」、「方向」（便利で人にやさしい交通環境、防災・防犯、駅を中心とした生活圏の形成、良好な住環境の維持、緑の保全と創造、連携と協働のまちづくり推進など）、は、人口減少社会においても変わらないものと考えております。</p> <p>なお、本マスタープランでは、これらの視点を踏襲しつつ、人口減少等の新たな課題を踏まえ、当面の目標として今後 10 年における見直しの視点を考慮したまちづくりの基本的な方針を示しております。なお、本マスタープランにおいては、市のさまざまな分野の計画等と整合を図りつつ策定しておりますが、税収や予算などにつきましては、必要に応じて、個別計画等に委ねられるものと考えております。</p>	一部反映 済み
24	<p>○P23 ⑥関連法令</p> <p>国の地域主権改革、と謳っているのもう少し主体的な感じが得られると良いと思います。</p>	<p>国の地域主権改革により、用途地域や風致地区などの決定権限が移譲されております。このことから、「まちづくりの目標 2 “みどり”を感じられるまちをつくる」の戦略 2 などで示しております、風致地区の指定見直しなど、地域の独自性をもったまちづくりを進めてまいります。</p>	一部反映 済み
25	<p>意見 1 変化していく「環境」に柔軟に対応できる地方自治を求めます</p> <p>私は「環境」を小平市で生活する市民ひと</p>	<p>本マスタープランでは、第 2 部「第 3 章 マスタープランの見直しの視点」などで示しておりますとおり、超</p>	反映済み

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>りひとりを取り囲む、身の回りの「生活世界」のことだと考えます。少子高齢社会、単身者世代の増加の推測が示す今後のコミュニティのあり方を念頭においたとき、求められるまちづくりは、高度経済成長期の価値観を前提とした「便利さ」追求の大規模開発、商業施設の建設だけでは対応できないのではないのでしょうか。「持続可能な都市の形成」を掲げるとき、今の時代にあった「都市」のあり方とは、短期的視座ではなく、中期・長期的視座が必要です。そこで質問ですが、プラン第2部第3章の「4 鉄道駅周辺の拠点を高めるまちづくり」で述べられる「拠点性を高める」とは具体的にはどのようなイメージなのでしょう。</p> <p>「生活世界」に対する価値観は戦後70年を経て大分変化しています。必ずしも自分の「生活世界」が「拠点」になることを市民は求めています。むしろ、自分の暮らす「環境」は、生活環境、子育て環境、教育環境、老後の環境などの視点から単純に「都市化」すれば何でも解決する式の「便利さ」ではなく、持続可能な形で生活を安心・安全に営むことを選択する中・長期的視座を大切にする潮流にあります。このような「環境」に対する市民の価値観の変化を受け止め、柔軟に政策を行える市であって欲しいです。</p>	<p>高齢社会の進展や人口減少等のまちづくりを取り巻くさまざまな課題を踏まえて、将来を見据えたまちづくりの方針を示しております。なお、「拠点性を高める」につきましては、「まちづくりの目標1 “顔”をもったまちをつくる」の実現に向けて、これに基づく戦略として、小川駅西口地区、小平駅北口地区の土地の高度利用などを踏まえた市街地再開発事業の推進などを掲げております。再開発事業においては、買い物、医療、福祉などの多様な都市機能の集積や公共交通の結節点としての機能強化、交流の場の創出などを図ってまいります。</p> <p>ご意見につきましては、今後の具体の施策・取組み等の参考とさせていただきます。</p>	

### ■ 第3部 全体構想と実現に向けた取組

#### 第1章 全体構想

番号	ご意見等	検討結果	対応
26	<p>○まちの将来像</p> <p>「みどりつながる生活空間 快適都市 こだいら」となっていますが、小平市は「プチ田舎」と商標登録したと聞いています。整合性が取れていないと思います。小平市は「都市」と言わない方がみんなの感覚に合っていると思います。アドバイザーの思い付きに振</p>	<p>「プチ田舎」は、小平市観光まちづくり振興プランにおけるキャッチフレーズでございますが、小平市が「都市」であることを否定するものではないと考えております。なお、本マスタープランにおいても、小平市観光まちづくり振興プランの基本的な理念は</p>	<p>反映しない</p>

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>り回されなくて欲しいと思います。</p> <p>「みどりつながる快適空間 プチ田舎 こだいら」ではないですか。</p>	<p>踏まえて策定しております。</p> <p>また、まちの将来像につきまして、素案では、「みどりつながる快適生活都市 こだいら」となっており、小平市都市計画マスタープラン見直し検討委員会において、十分な議論を経て定めたものです。</p>	
27	<p>第3部 まちづくりの目標2 “みどり”を感じられるまちをつくる。P25</p> <p>「そのため、今後もまちの誇りである小平のみどりを活かしながら、新たなみどりの創出も図り、“みどり”を感じられるまちづくりを進めます。」</p> <p>「小平のみどりを活かしながら」では、表現が弱いです。「小平のみどりを守りながら」としてください。大きな樹林地を破壊して道路の環境施設帯の街路樹をつくる行為も、「小平のみどりを活かしながら、新たなみどりの創出」だと言えてしまいますが、多くの住民が望んでいないことです。まずは、既存の「小平のみどりを守る」姿勢を見せて下さいませんか。</p>	<p>「みどりを活かす」という表現には、「みどりを守る」という意味も含めた上で、積極的に活用していくことを示したものです。今後も、既存のみどりを維持・保全しながら、新たなみどりの創出も図っていきます。</p>	反映しない
28	<p>○まちづくりの目標と戦略</p> <p>目標の1は「市民の“ちから”を活かせるまちをつくる」を最初に持ってくるべきだと思います。これを冒頭に持ってくれば小平市の独自性が出ると思います。実際、もう市民が覚醒する時代がすぐそこまで来ています。既成政治に嫌気がさしている市民が、目覚める時が来ているのです。</p>	<p>今後のまちづくりにおいては、参加と協働のまちづくりが重要であると考えていることから、まちづくりの目標の一つを「市民の“ちから”を活かせるまちをつくる」としたところです。順番を変えることで優先度や重要度が変わるものではないため、本マスタープランの構成を踏まえ、まちづくりの目標の1に変更することは考えておりません。</p>	反映しない
29	<p>鉄道駅を中心としてまちを整備するという方針は良いことだと考える。</p> <p>また、公共交通ネットワークの形成と道路ネットワークの形成という記述があるが、こ</p>	<p>市の成り立ちや国・東京都の動向等を踏まえ、今後も駅を中心とした都市の形成を図るなかで、超高齢社会の進展などの課題を見据えた道路・公共交</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>の道路ネットワークは公共交通（バス）の定時性が確保されることや、バス停で待つ人と歩行者が互いにゆとりを持つことのできる歩道の整備など公共交通の利用しやすさを中心にして考えた方が良い。今後、高齢化がさらに進み、免許返納なども議論されている時期なので将来の事を考えると自家用車に頼りすぎることはリスクになるのではないか。</p>	<p>通ネットワークを構築していきます。</p>	
30	<p>拠点とネットワークの設定に疑問</p> <p>7つの鉄道駅を拠点とし、ネットワークで接続するという構想は正しいのだろうか。都市計画にもとづいて作られたわけでもなく、地理的な配置に偏りがある鉄道駅は、小平市全体の生活や産業の拠点として相応しいのだろうか。現在の東西の幹線道路、鉄道、水と緑のネットワークで、生活や産業のためのネットワークの役割は果たせるだろうか。既存の鉄道駅を前提にするのではなく、市民生活、産業振興、都市農業振興、商店街活性化、防災の観点から、周辺都市との今後の関係づくりも念頭に、小平市のまちづくりと市外との交通や市内交通網を、時間をかけて整備していくべきではないか。</p>	<p>小平市では、市の成り立ちや国・東京都の動向等を踏まえ、多くの鉄道駅、特徴的な自然環境や歴史・文化、産業の拠点を性格に応じて拠点として位置づけ、その性格を育むとともに、市内外の拠点との交流を支えるネットワークの強化を図る都市の方向性を示しております。</p> <p>また、産業、防災等との分野横断的なまちづくりの中では、他の様々な拠点の位置づけも考えられますが、都市計画においては、「将来の都市構造」で示す拠点やネットワークが、市の骨格であると考えております。</p>	一部 反映済み
31	<p>○連携軸</p> <p>道路軸:これから人口減少に突入する視点を正確に持てば、新たな都市計画道路を今まで通りの軸と考えるのは間違いだと思います。東京のみ一極集中で、地方とは言わず近隣都市では現実に起こっている変化が、これからは東京でも起こるのだということに気づこうとしていないと思います。小平だけでも現実を見据えて下さい。</p>	<p>都市構造においては、今後の人口減少を踏まえましても、広域な都市間や拠点間を結ぶ幹線道路を連携軸として考えております。</p>	参考意見
32	<p>第3部第1章全体構想 3 将来の都市構造</p> <p>(2) 連携軸の2項目の後に、</p> <p>■交通軸と水と緑のバランス</p>	<p>「将来の都市構造」は、拠点と軸によって市全体の将来の都市の骨格を示しており、そのうえで、具体的な記</p>	反映 しない

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>都市計画道路の整備にあたっては、特に都市計画道路と小平グリーンロードの交差や隣接する箇所などについて、小平の水と緑の自然環境を守ることでできる整備のあり方を市民参加で検討する。</p> <p>の一項目を求めます。</p> <p>交通軸として具体的に都市計画道路の指定がある中で、水と緑の軸として小平の風景であるみどりを維持・保全し、みどりを活かすまちづくりをすすめるためには、みどりと共存できる地域づくりが重要と考えるからです。</p> <p>市民による自然環境を守る具体的な活動の実績が多くあります。都市計画マスタープラン改定が、小平にとって大事な場所を次世代に負担を残さずに引継いでいくための市民主体のまちづくりの指針となることを期待します。</p>	<p>載については、地域別構想等で示しております。</p> <p>ご要望の内容につきましては、「東地域のまちづくりの方針」の「②質の高い幹線道路整備と適切な沿道まちづくり」等に記載しており、また、全体構想においても、「2 まちづくりの目標」や、第3章「まちづくりの方針〈部門別〉」等でもお示ししております。</p> <p>なお、これらの推進には、市民参加による取組みが不可欠であることから、最後の「第5部 都市計画マスタープランの推進」の第1章に「市民生活に身近な地区のまちづくりの推進」を構成し、マスタープラン全体として、市民主体のまちづくりの指針となることを目的としております。</p>	
33	<p>P28～29</p> <p>連携軸として2つ上げられている交通軸と水と緑の軸が交差する場合は、両者が両立しうよう十分に検討するという文言を加えてほしい。</p>	<p>「将来の都市構造」では、拠点と軸によって市全体の将来の都市の骨格を示しているため、ご提案の文言を加えることは考えておりませんが、同様の内容につきましては、「東地域のまちづくりの方針」の「②質の高い幹線道路整備と適切な沿道まちづくり」に記載しております。</p>	反映しない

## 第2章 まちづくりの目標に基づく戦略

番号	ご意見等	検討結果	対応
34	<p>2章目標1戦略1：西武多摩湖線の青梅街道駅を市庁舎の西側へ移設し、利用者の利便性を図る。(P31)</p>	<p>「“顔”をもったまちをつくる」の実現や中央地域のまちづくりなどに向けた具体的なご意見として参考とさせていただきます。</p>	参考意見
35	<p>駅前再開発の見直し(駅前の再開発の手法として駅前にタワーもうけると言ったどこでも似たような町並みができてしまいます。</p>	<p>「まちの将来像」や「まちづくりの目標」の実現に必要であることから、市としては市街地再開発事業を支援</p>	参考意見



番号	ご意見等	検討結果	対応
	再開発して街が衰退する例も山ほどあります。もっとコンパクトで人の顔が見える開発にするべきと考えます。）	していきたいと考えております。具体的なお意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。	
36	小平の顔は駅ではなく、自然、玉川上水であって欲しいと思います。今ある緑を大切にそれを小平の顔（？）、小平の魅力にすればいいと思います。駅は必要なことだけ道路と広場（公園・ロータリー）だけで充分だと思います。	<p>本マスタープランでは、拠点の位置づけの一つを鉄道駅として、駅ごとの役割や機能を分担するという考え方の中で、各鉄道駅を「顔」という表現で示しているものです。なお、拠点につきましては、「みどりの拠点」なども示しております。</p> <p>また、鉄道駅周辺の利便性を高めるためには、市街地再開発事業の手法により、道路や駅前広場の整備にあわせて、商業施設、住宅施設などを一体的に整備する必要があります。</p>	参考意見
37	第2章「まちづくりの目標2」について 農地がたくさんあるメリットを生かし、子供、家族、若者をターゲットに短期的な農業体験のようなサービスが充実すると市外から人が入ってくるきっかけになると思います。	地域別構想の「中央地域のまちづくりの方針」に記載しておりますとおり、農業公園の整備を検討して観光まちづくりを推進してまいります。	反映済み
38	<p>・農業振興について</p> <p>少なくとも農業《公園》ではないと思う。私が住む文京区では、上野（谷中、根津、千駄木）あたりで古い民家（民地）をナショナルトラストが管理運営しています。開放する日は限られていますが、元の住宅の使われ方を保っていて、いわば動態保全的になっています。これを異なった用途にしてしまったら、その雰囲気は保たれない。小平の場合は、戸建ての民家の保存とは異なり、もっと大きな、そして広い《農村の風景》が保たれてはならないと考えます。細かい区割りされた農地（いつでも宅地にできる）では、小平の風景は失われてしまっています。里道（たからみち）や小川分水など、17世紀の小川</p>	「まちづくりの目標2 “みどり” を感じられるまちをつくる」の戦略1などで示しております農業公園の整備の検討につきましては、小平らしいみどりの維持・保全に向けた取組みの一つと考えております。農地の保全につきましては、「まちづくりの方針＜部門別＞」の「まちづくりの目標2 “みどり” を感じられるまちをつくる」で示しておりますとおり、援農ボランティアによる担い手の仕組みづくりのほか、国や東京都の動向も踏まえながら、農業振興施策と連携して検討してまいります。	一部反映済み

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>村開村以来のインフラストラクチャーを保全することが《農村の風景》だと思えます。出来れば、農地区画（農家農地として保全）し、むしろその農地（農家）をボランティアで運営、保全したい。そのための知恵を絞ることを、マスタープランに盛り込むのが、いいと思えます。</p>		
39	<p>意見 4. 第 3 部 第 2 章まちづくりの目標 2 “みどり” を感じられるまちをつくる 戦略 P34</p> <p>戦略 3 として、「農地の保全、都市農業」について記載して下さい。小平市は 2015 年に施行された都市農業振興基本法に基づいて、「小平市農業振興計画策定の基本方針」を策定しようとしており、市の各分野の計画とも矛盾しない内容であり、かつ、第 3 部 第 3 章の土地利用方針の（5）農地・生産緑地の内容ともあっています。戦略にも加えて頂きますようお願いいたします。</p>	<p>農地のあり方につきましては、今後重要性が増すものと考えておりますことから、「まちづくりの方針〈部門別〉」の「4 水と緑のまちづくりの方針」などで、農地の保全について示しております。しかし、都市農業を取り巻く課題は、都市計画に限らず、さまざまな問題を含んでおりますことから、また国や東京都などで動向を踏まえ、個別計画に委ねるものと考えております。このことから、まちづくりの目標 2 の戦略として位置づけることは考えておりません。</p>	反映しない
40	<p>道路が賑わいを作るという勘違いを改める。（太い道路ができて街が希薄で魅力がなくなってしまう例は全国に山ほどあります。逆に賑わいの象徴であり住みたい街の上位に上がっている吉祥寺や下北沢は太い道路がなく車の通過としては不便になっているがそのため人が散策して楽しい町並みになっています。道路が賑わいを作るとするのは大きな勘違いです。こんな都市計画をしているのは先進国では日本だけです。もっと勉強して下さい。）</p> <p>マスタープランの取り纏めご苦労様です。どうぞよろしく願いいたします。</p>	<p>「まちづくりの目標 3 “にぎわい” を育むまちをつくる」では、鉄道駅中心拠点の拠点性を高める市街地再開発事業や人のつながりや交流を育む場として農を身近に感じる空間としての小平都市計画公園整備などを示しております。</p>	参考意見
41	<p>目標 3 戦略 2 : BS の宿舍の跡地にホテル等宿泊施設を建設して地域の活性化。また自衛隊鈴木官舎後を国から譲渡してもらい、公園</p>	<p>「“にぎわい” を育むまちをつくる」や「鉄道駅周辺地区のまちづくりの方針〈小川駅周辺地区〉」などで示すま</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	等にして憩いの場を作る。(P34)	ちづくりに向けた具体的なお意見として参考とさせていただきます。	
42	第2章 まちづくりの目標4 戦略3 健康まちづくりの推進 ・ボランティア活動を「ポイント制」にして、将来、本人が病気したり介護が必要になった時にポイントを活用し生活費の負担を軽減出来る制度があると助かる。(他の自治体では実施している所もあると聞いています) ・最近、飛行機のそう音がひどくテレビの音声が聴えない時があり改善してほしい。	都市計画マスタープランは、「都市計画に関する基本的方針」を示すものですので、ご意見につきましては、他の分野の個別計画や今後の具体の施策・取組み等の参考とさせていただきます。	参考意見
43	第2章「まちづくりの目標4」戦略3 健康まちづくりの推進について 小平駅、花小金井駅は駅をおりるとすぐにグリーンロードがあるので、ウォーキング・ジョギング・サイクリングと関連したサービス(例:ランステーション、スポーツ用品店)を提供しつつ、健康都市をアピールできると良いと思います。	都市計画マスタープランは、「都市計画に関する基本的方針」を示すものですので、ご意見につきましては、他の分野における今後の具体の施策・取組み等の参考とさせていただきます。	参考意見
44	目標4 戦略1:防災に関して2次元なことでは即応できず、庁舎屋上や大規模病院等にヘリポートを確保し、3次元的な運用・対応能力を向上させる必要がある。(P35)	「まちづくりの目標4 “ひと”にやさしいまちをつくる」や「まちづくりの方針<部門別>」の「3 安全・安心なまちづくりの方針」などで示すまちづくりに向けた具体的なお意見として参考とさせていただきます。	参考意見
45	1) 駅が多いので、コンパクトシティを導入しやすい環境にある。マスタープランにもっと反映できないだろうか。	本マスタープランは、「初来の都市構造」で示す内容を中心に、国が掲げるキーワードである『コンパクト・プラス・ネットワーク』を踏まえて策定しております。	反映済み

### 第3章 まちづくりの方針<部門別>

番号	ご意見等	検討結果	対応
46	3章1:(6) 国・都が管理する土地を積極的	本マスタープランにおいては、「小	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>に活用する方策のあると考える。例えば、玉川上水の土手にベンチや、トイレ、を設置してもらい、一層の観光化を図る。(P38)</p>	<p>平市観光まちづくり振興プラン」の理念を踏まえておりますが、ご意見につきましては、今後の具体的施策・取組み等の参考とさせていただきます。</p>	
47	<p>○P39、41 1 土地利用の方針</p> <p>日本の都市は今までは何の手立ても立てずに用途が形成されてきたと言っても過言ではないと思います。後付け都市計画だったと思います。工場が出来ていたから工場地域、等々。その結果、泡のように広がったまちを、今後人口減少に伴い、機能を損なわずにどのように縮小させていくかを、住民と一緒に考え行動する必要があると思います。</p> <p>これはチャンスです。小平市全域を学校等の公共施設を中心に緩やかな住居地域、建設範囲・領域の誘導を行い、長い目で、コンパクトエリアが点在する小平市にする計画が必要であると思います。コンパクトエリアとコンパクトエリアの間は都市農業が広がる形式が広がっていく時代を迎えるのではないのでしょうか。そしてそれを結ぶコミバスはさらに重要になると思います。コンパクトエリアと商業地域を結ぶことによりコミュニティも創出する役割を果たすでしょう。</p>	<p>都市計画マスタープランは、「都市計画に関する基本的方針」を示すもので、都市計画の観点から、将来のまちづくりの方向性を示しております。本マスタープランにおいては、鉄道駅を中心とした利便性の高い生活圏の形成をめざすという基本的な考え方は踏襲しつつ、メリハリのある役割・機能分担と互いの交流を支える連携軸の強化を図ることで、市全体としての都市機能の向上をめざし、持続可能な都市の形成を図ることとしております。公共施設を中心とした生活圏の形成などは今後の地域のまちづくりにおいては重要な視点の一つであると考えますので、ご意見につきましては、具体的な施策・取組み等の参考とさせていただきます。</p>	一部反映 済み
48	<p>○P39 低層住宅地</p> <p>「ゆとりある敷地の確保や敷地内の緑化を促進し」には賛成します。</p> <p>最近 50~60 坪の住宅が半分に分割され狭い住居が建つ状況が散見されます。その結果住宅の小さな緑さえ無くなっていく環境になっています。促進するには、具体的にどのような方法を考えているのでしょうか。小平市独自の緑化条例を創設してはどうでしょうか。例えば、新築・増築時には必ず中高木を1本植える、或いは、環境に配慮して、道路に面する駐車場は生垣で囲まなければならない、などの、厳しくない緑化条例を作って</p>	<p>低層の住宅地における良好な住環境の維持・保全に向けては、都市計画法や建築基準法における制限や「小平市開発事業における手続及び基準等に関する条例」、また必要に応じて地区計画を策定するなど、さまざまな方策を講じておりますが、今後は、「小平市民等提案型まちづくり条例」の活用により、市民主体の地区まちづくりルールをつくることで、良好な住環境の維持・保全も図ってまいります。具体的にご意見につきましては、今後の施策・取組み等の参考とさせていただきます。</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>はでしょうか。小さなみどりを大きな負担ではなくできる範囲で実現させる条例化する案です。市内の建築課・造園家の知恵を借りれば難しくない条例だと思います。</p>	<p>きます。</p>	
<p>49</p>	<p>○P39 商業地①</p> <p>商業地域ごとにどのような商店が欲しいかのヒアリングを市が行い、その商店街に働きかけを行い、且つ、商店同士の話し合いを主導し、魅力ある店の誘致、内容のブラッシュアップを図ることを考えて頂きたいと思います。起業する商店には補助金の提供も考えると良いと思います。つまり現在の補助金を「見直し検討委員会」の意見を取り入れ見直すことにより財源は確保できると思います。</p>	<p>本マスタープランの商業地における取組みにつきましては、「まちづくりの方針&lt;部門別&gt;」の「1 土地利用の方針」や地域別構想等で示しておりますが、地域特性に応じて、商店街を活かすなど、日常を支える商業機能の維持・誘導を図ります。なお、市内のにぎわい醸成に向けた店主への補助事業等のさまざまな施策は行っているところでございますが、ご意見につきましては、他の分野における施策・取組み等の参考とさせていただきます。</p>	<p>参考意見</p>
<p>50</p>	<p>○P39 商業地②</p> <p>小川駅西口、小平駅北口の再開発は、まず道路整備の後に市民と一体となって考えましょう。高層建築は小平にふさわしくありません。基本姿勢として小平らしく、まず地元の商店街の再生・復活を地道に作り出す工夫が必要です。今から 50 年後には 66 年前の 1950 年の人口になる事を考えれば、高い建物は都内だけとなり、結果として駅前に廃墟を作り出すことになるでしょう。デベロッパーに躍らされるのではなく、先を冷静に見据えて計画してください。</p>	<p>本マスタープランの見直しの視点を踏まえ、小川駅周辺や小平駅周辺の拠点性を高めることは、「まちの将来像」や「まちづくりの目標」の実現に必要であると考えております。両地区につきましては、地域の市民のみなさんが主体となって事業計画案の検討が進められており、市としては市街地再開発事業を支援していきたいと考えております。なお、現マスタープランを補完する「小川駅前周辺地区まちづくりビジョン」では、商店街との連携についても示しております。</p>	<p>参考意見</p>
<p>51</p>	<p>花小金井駅から小金井公園に行く道路の整備を要望します。サイクリングロードから上記公園に行く道路が不備のため、年間多数の公園訪問者の方から道路を聞かれますが説明するのが大変です。ご検討下さい。</p>	<p>今後の東地域のまちづくりの推進に向けて、具体の施策・取組み等の参考とさせていただきます。</p>	<p>参考意見</p>

番号	ご意見等	検討結果	対応
52	②都市計画道路 3・2・8 号線は環境破壊になります。自動車の便利さばかり計らず、人が住む環境をどう破壊から守るかを考えて下さい。	広域ネットワークを形成する都市計画道路は、円滑な交通ネットワークの形成や、渋滞の解消、歩車道分離による歩行者や自転車利用者の快適性の向上、延焼遮断機能としての防災性の向上、沿道利用の促進によるにぎわい創出などの効果をもたらしますことから、整備を行う必要があると考えております。整備にあたっては、「まちづくりの方針<部門別>」の「2 道路・公共交通ネットワーク等の方針」にございますとおり、地域の特性や環境への影響にも配慮して取組みを進めます。具体的取組み等につきましては、東京都と協力して進めます。	参考意見
53	③新しい道路づくりには必ず自転車専用道路を併設して下さい。にぎわい拠点づくりにも自転車専用道路を作って下さい。	広域ネットワークを形成する都市計画道路は、歩車道分離による歩行者や自転車利用者の快適性の向上、沿道利用の促進によるにぎわい創出などの効果をもたらします。自転車道につきましては、「まちづくりの方針<部門別>」の「2 道路・公共交通ネットワーク等の方針」にございますとおり、徒歩や自転車ネットワークの形成を図っていきます。	反映済み
54	何本かの都市計画道路は実施されますが、見えない高齢者が安全に道路を横断できる施策、生活道路を含めて安心して外出できる計画を実施して下さい。 公共交通網を充実させて下さい。 利用しやすい公共施設を望みます。 音響信号とエスコートゾーンの設置を忘れずに実施して下さい。	「まちづくりの方針<部門別>」の「2 道路・公共交通ネットワーク等の方針」にございますとおり、誰もが円滑に移動できるユニバーサルデザインへの対応を行います。ご意見につきましては、今後、他の分野とも連携しながら、具体的施策・取組み等にあたり参考とさせていただきます。	反映済み
55	小平市都市計画マスタープラン改定（素案）の中で「道路・公共交通ネットワーク等の方針」について公共交通ネットワークの形	「まちづくりの目標 1 “顔”をもったまちをつくる」や「まちづくりの方針<部門別>」の「2 道路・公共	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>成の具体的な考え方はこれからでしょうが希望としては老若男女が活動しやすい交通ネットワークの構築をお願いしたいと考えています。具体的には「市内循環バス」を市役所、学校および鉄道駅等を中心に各地域へネットワークを構築することにより活動範囲が広がり「安全でかつ安心できる」快適な生活がおくれるのではないかと考えます。一つには高齢者の運転免許返還にもつながるのではないかと考えます。</p>	<p>交通ネットワーク等の方針」にございますとおり、超高齢社会の進展などの対応を図るため、快適な移動を支えるバス路線網を維持し、基盤整備に合わせた新規バス路線の導入に向けて、交通事業者をはじめとする関係機関との連携を図ります。また、引き続き、コミュニティバスやコミュニティタクシーの運行による地域特性に応じた交通移動サービスの検討を進めまいります。</p>	
56	<p>自転車に関する視点が欠如しています。あかしあ通りは、古くから自転車レーンが設けられた先進的な道路でしたが、古いままで、交差点付近で自転車レーンが消滅する欠点が改善されていません。三鷹市や小金井市では最近すばらしい自転車レーンが整備されています。それらやオランダ等を参考に、老若男女、自転車は車道の左側を安心して走れるインフラを作ること。自転車は車輛だと言う常識作り。交通ルール啓蒙。以上ハード・ソフト両面から、小平市こそ自転車先進市となる計画を柱の1つに掲げるべきです。グリーンロードの主要部分は自転車道なのですから。ブリヂストンの大きな工場もあるのですから。</p>	<p>本マスタープランにおいては、「まちづくりの方針&lt;部門別&gt;」の「2 道路・公共交通ネットワーク等の方針」において、自転車利用者を大切にされた道路空間の確保について記載しているほか、地域別構想においても、都市計画道路の整備に向けては、自転車利用者にやさしい空間となるよう東京都と協力して整備を進めることなどを示しております。</p>	反映済み
57	<p>地下道案を実現すべし。東京都は車道を作れるし住民は玉川上水を楽しめる。ウィンウィン！！これ以外に方策なし。</p> <p>地下道で玉川上水をくぐらせる。かつても地下道案あり。予算や工期に踊らされて地下道案を出したりひっこめたりせず、信念をもってやるべし。</p> <p>地下道など東京都は車道を作れるし、住民は玉川上水を従来通り楽しむ。ウィンウィンの案なり。</p>	<p>都市計画道路の整備に関しましては、「まちづくりの方針&lt;部門別&gt;」の「2 道路・公共交通ネットワーク等の方針」や地域別構想において示しております。</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
58	2) 所有農地単位のミニ開発が多く、道路が分断されているところが多い。特に歴史的な理由で東西に繋がる道路が極めて少ないため、迷路が多い。なし崩し的な農地の宅地化を防ぎ道路ネットワークを整備することが出来ないだろうか。	道路ネットワークの形成につきましては、「まちづくりの方針<部門別>」の「2 道路・公共交通ネットワーク等の方針」に基づき進めてまいりますとともに、開発事業により整備される道路につきましては、別に定めております「小平市開発事業における手続及び基準等に関する条例」等に基づき、本マスタープランに示すまちづくりに向けて施策を講じてまいります。	一部反映 済み
59	何十年も前に計画した東京都の道路計画について見直しを都に提案したらどうか。社会の変化、人口減、消費生活の変化（スーパー、郊外の大型店、ネットによる買い物…）に沿った計画が必要だ。	都市計画道路の見直しについては、平成 28 年 3 月に都区市町で策定した「東京における都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）」において行っており、必要性の検証の結果、市内の全ての未着手路線において必要性が確認されております。なお、整備方針の策定にあたっては、人口の動向など社会状況の変化も考慮しております。	一部反映 済み
60	持続可能な社会を実現とコンパクトな街づくりのため、東京都を含む都市計画道路計画の点検見直し	「将来の都市構造」で示しますとおり、持続可能な都市の形成に向けては、広域ネットワークを形成する都市計画道路による道路ネットワークの形成は必要であると考えておりますが、優先整備路線以外の都市計画道路については、東京都と連携しながら、今後の都市計画道路のあり方について検討していきます。	参考意見
61	3章2:(3) 多摩湖線の終点萩山を小平まで延線し、JRと西武新宿線等との便宜性・時間短縮を図り、利用効率を上げ小平駅の拠点化を図る。(P44)	個別の鉄道運行システムの見直しにつきましては、今後の参考意見とさせていただきます。	参考意見
62	1. 3・3・3道路はいらない。	広域ネットワークを形成する都市	参考意見



番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>3・2・8 道路は再検討すべきである。(p19、P30、P42)</p> <p>P19 では計画的道路ネットワークの形成として都市計画道路建設を推進することを取り上げている。P30 では、東西に小平 3・3・3 を南北に小平 3・2・8 を配置した将来都市構造図を描いている。P42 では、道路ネットワークの形成と題して、「広域ネットワークを形成する都市計画道路整備を進めま す(幹線道路の新設)」と宣言している。</p> <p>これらの道路がネットワークを構成し、小平市が活気溢れるまちになるとしているが、私はまったく真逆で、これらの道路こそ、コミュニティを分断・分割し、まとまりのない寂れたまちをつくりだす元凶と考える。</p> <p>とくに小平 3・3・3 は小平市の真ん中を南北に分断することになる(横軸)。現在事業中の小平 3・2・8(縦軸)とにより、小平市は大きく 4 つの地区に分割・分断され、お互いの交流がままならないまちになることは明白である。</p> <p>将来の人口減、交通量減を見据えて、小平 3・3・3 は本当に必要な道路かを真剣に論議することが私たちの責務であることを忘れてはならない。担当部局の全員で 3・3・3 の予定地を歩いてみてはいかがですか。</p> <p>私は、3・3・3 はいらない道路と考える。3・2・8 道路の必要性については、住民投票用紙が焼却され住民の「意思」は不明である。何らかの方法により、住民の意見を聴取し、市政に反映させるべきである。再検討を求めるものである。</p>	<p>計画道路は、円滑な交通ネットワークの形成や、渋滞の解消、歩車道分離による歩行者や自転車利用者の快適性の向上、沿道緑化による緑の創出、延焼遮断機能としての防災性の向上、沿道利用の促進によるにぎわい創出など多くの効果をもたらしますことから、地域の特性や環境への影響に配慮しながら、整備を進める必要があると考えております。また、コミュニティにつきましては、地域コミュニティを育む拠点づくりを進めるとともに、優先整備路線の整備による周辺のまちづくり等を市民参加により進める中で、地域のまちづくりを進めてまいります。</p>	
63	<p>○P45 ⑤</p> <p>小平市はユニバーサルデザインに向いている街です。大きな道路計画より住宅地の細かい道路の部分部分に目を見張り、細かい対応が求められています。</p>	<p>「まちづくりの方針&lt;部門別&gt;」の「1 土地利用の方針」、「2 道路・公共交通ネットワーク等の方針」、「5 良好な住まいづくりの方針」などで、ユニバーサルデザインへの対応を示しております。</p>	反映済み

番号	ご意見等	検討結果	対応
64	<p>第3部第3章2 道路・公共交通ネットワーク等の方針</p> <p>(1)道路ネットワークの形成 その他都市計画道路に言及した部分を含む</p> <p>道路問題の基本である都市計画道路についての小平市の理念と方針が基本的に誤っていることを以下の論点から指摘し、政策理念の改定、変更を要求します。</p> <p>1 道路政策及び運用については本プランの各処において記述され、諸政策に重要な関わりを示しています。例えばP17、P19、P22、P27、P28、P31、P36、P37、P38等において記述されています。これらの個々の事項については敷衍を省略します。基本的な理念が変わればこれらの個々の事象もおのずから変更されるからです。</p> <p>2 基本的な理念と方針に誤りについて</p> <p>小平市の理念（あるといえるかどうか）と方針は東京都の理念と方針をそのまま踏襲しているのではありませんか。本プランに示された方針と政策は都の都市整備局基盤整備部（街路計画課）及び建設局道路建設部（計画課）の政策と一致しています。</p> <p>道路ネットワークの形成①の都市計画道路整備－東京における都市計画道路の整備方針と事業化計画－をそのまま実践するという方針です。</p> <p>ところがこの整備方針に規定した具体的な方針や計画は第二次整備計画の整備方に具体的に提起されています。その骨子は①「都市計画道路は直線、かつ一定の感覚を有するものであること。（格子状）」および②「既定の都市計画決定はすべて妥当であり、必要である。（格子状と環状及び放射状の組合せ）」</p> <p>この2項にあやまちが明白に表示されています。そのあやまちとは</p> <p>①格子状の都市計画道路は既成のまちに適</p>	<p>広域ネットワークを形成する都市計画道路は、円滑な交通ネットワークの形成や、渋滞の解消、歩車道分離による歩行者や自転車利用者の快適性の向上、延焼遮断機能としての防災性の向上、沿道利用の促進によるにぎわい創出などの効果をもたらしますことから、整備を行う必要があると考えております。整備にあたっては、「まちづくりの方針&lt;部門別&gt;」の「2 道路・公共交通ネットワーク等の方針」にございますとおり、地域の特性や環境への影響にも配慮して取組みを進めます。</p> <p>なお、優先整備路線以外の都市計画道路については、地域のまちづくりにあわせた事業化の検討や施行主体を明確にするなど、東京都と連携しながら、今後の都市計画道路のあり方について検討していきます。</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>用していること</p> <p>〈道路を含む〉の始まりは紀元前 5 世紀のペルシャで発祥しました。(日端康雄 都市計画の世界史)以後現代にいたるまで格子状は都市計画道路の中核になっています。ところでこの格子状道路計画は新たな街づくりの手段として使用されてきたものです。畑地や森林、雑木林等を開発して新たな都市を作るときに策定したものです。外国の領主たちや日本の大名たちが自分たちの居住地に領民たちの居住地や事業地として開発したのが格子状道路です。「新たな」まちづくりのために使用したものです。江戸でも川向こうの新開地(現在の墨田、葛飾、江戸川地域)は格子状のまちづくりになっています。</p> <p>ところがいわゆる旧市内は複雑で雑多な道路によるまちになっています。必要性があつたことだったとのこと。</p> <p>ところが現代の東京のまちづくりのなかで、都市計画がもちこまれたのは当然のこととして新設道路に格子状を持ち込みました。それも未開発地域や再開発、区画整理地域に持ち込むのは妥当だとしても既成の市街地にも有無をいわず持ち込んだのです。そして都市計画道路を基本として新たな街づくり、つまり既成のまちづくりは破壊せよとの政策です。</p> <p>このことについては現在、小平市が 328 号線について東京都と共同でこの思想を持ち込んでいます。もちろん関係地域の住民は大反対です。</p> <p>格子状都市計画道路はまちこわしだからです。今ある道路は今住んでいる住民たちが自ら選択したものであり、それにもとづいて時間と工夫をかけてまちづくりをしてきたものです。</p> <p>②まちづくりは住民が選択するものです。このプランでも形式的にはこれを認めています。都市計画官僚たちも基本的には認めざ</p>		

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>るを得ません。</p> <p>ところがこの理念を破壊しているのが格子状都市計画道路であることになぜ気が付かないのでしょうか。都市計画官僚たちは大学の都市計画講座で仕込まれた「都市計画道路論―すなわち格子状道路論」を使い道―既成市街地か開発地かの区別もしないで画一的開発論で運用しているのではないのでしょうか。</p> <p>③既成市街地の都市計画道路の線引きは関係住民が反対の場合はすべて計画を廃止せよ。今後の道路建設の基本方針は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イ 関係住民の要求及び合意のもとに行うこと</li> <li>ロ 未着手都市計画道路は関係住民の合意のないものは廃止すること</li> <li>ハ 現状及び将来交通需要のない未着手都市計画道路は廃止すること</li> <li>ニ 市全体のまちづくりを広域的及び地域的に住民参加で策定すること。参加については次の提案、意見に基づくこと。</li> </ul>		
65	<p>街づくりカフェに2回ほど（うち1回は見学会）参加させていただきました。素案に対してですが、基本理念は良いと思います。プラスしてほしい面は、人的側面の交流の活性化をぜひとも取り込んでほしいと思います。</p> <p>5-2 のいきいきと住み続けることのできる住環境の点で、さらに具体策が必要と思います。特に人の交流、活動を促進するような土台作りが必要と思います。</p> <p>スポーツ、文化、教育等で市民レベルでの活動促進です。私が知らないだけかもしれませんが、学校レベルでは、スポーツ大会、文化祭等有るかもしれませんが、だれでも参加できる市民スポーツ大会や、市民音楽祭等を年1回行い、文化面での交流を深め、高められるようにしてほしいと思います。またス</p>	<p>都市計画マスタープランは、「都市計画に関する基本的方針」を示すもので、都市計画の観点から、将来のまちづくりの方向性を示しております。今後のまちづくりに向けては、人のつながりが大切であるため、「まちづくりの目標3 “にぎわい”を育むまちをつくる」や「まちづくりの目標4 “ひと”にやさしいまちをつくる」といった目標を設定し、また「まちづくりの方針&lt;部門別&gt;」の「5 良好な住まいづくりの方針」において、地域コミュニティを育む拠点づくりなどについて示しております。</p> <p>人の交流を育む具体的なイベントなどに関するご意見は、他の分野の施策・取組み等の参考とさせていただきます</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>スポーツ練習のための校庭の開放、文化行事のための公民館利用の容易化（現状では練習に使用したくても利用制限が厳しい。参加者の過半数が市民でないと利用できない。）等の利用しやすい環境を作り提供していただきたい。</p> <p>緑、道路のネットワークで、歩け歩け大会や、コミュニティバス等が実施されています。さらに進めるため、各拠点駅を結ぶ、自転車、遊歩道の整備（車は緊急用のみ）をする。途中には休憩所、トイレも作り、市の農作物のミニ販売書等も作り、市民の交流を図れば、楽しい街づくりになると思います。又西武鉄道の協力で、市内循環切符で一日市内の駅で乗り降りしても 500 円等の企画をする。またコミュニティバスとの連携も図り、市内を自由に行き来できるようにする。友人や、お母さん方の交流が図りやすくなるのでは。</p> <p>市からの企画や情報発信により、それが市民の自主的な組織作りにつながり、そこからいろいろな活動が活発になっていけば、将来は明るいと思います。</p>	<p>ます。</p>	
66	<p>現在 19 万人の小平市の人口は 2060 年には 14 万人に減少すると試算されています。また高齢化によって車の所有台数も減少します。こうした社会の変化に対応して都市計画道路については市民参加で全面的に見直し東京都に提言する。</p>	<p>本マスタープランでは、超高齢社会の進展や人口減少を踏まえた見直しの視点を示しておりますが、広域ネットワークを形成する都市計画道路の整備の必要性につきましては、物流の確保、アクセス向上、防災、にぎわい創出、環境などの観点から、総合的に検討することが必要であると考えております。</p>	参考意見
67	<p>住んで 45 年南側はまだ畑。畑もいろいろ作物が変わり、今は梅畑です。緑多い環境が変わろうとしています。五日市街道、府中街道、青梅街道に囲まれた狭い所に南北府中所沢線、東西に新五日市街道が計画されていま</p>	<p>本マスタープランでは、「まちの将来像」や「まちづくりの目標」などにおいて、みどりの維持・保全を図る方針を示しております。一方で、将来の都市のあり方においては、鉄道駅を中</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>す。人が住む所より道路の方が多いのではと思うほどです。みどりの町小平ではなく、公害の町小平になるのではと心配です。小平は国分寺とは違います。商業の町ではありません。学園都市市民の町です。高いビルを建て商業地にしてもうまくいかないと思います。府中街道、五日市街道、青梅街道、それぞれの歩道はおそまつ。きちんと整備することこそ優先すべき計画ではないか。住まいをうばってまで新しい道路が必要とは思えない。</p>	<p>心とした利便性の高い生活圏の形成と、メリハリのある役割・機能分担と互いの交流を支える連携軸の強化を図ることが必要であるため、市街地再開発事業や都市計画道路の整備などの取組みも進めてまいります。</p>	
68	<p>都市計画道路と水・緑地（玉川上水・雑木林・緑地等）が交差するような場合は、各部門別だけ検討するのではなく、ぜひ複合的な形でチームを設け、計画を立てて頂きたい。そのことを文案の中に入れて頂きたいと思えます。</p>	<p>都市計画道路の整備にあたっては、庁内のまちづくりに関係するさまざまな部署が連携して取り組んでおります。</p>	参考意見
69	<p>「まちづくりの整備方針」として同等に掲げられた「水と緑のまちづくりの方針」と「道路・公共ネットワーク等の整備方針」が両立しない場合、そのまま片方を優先するのではなく、市民で検討する委員会を開催し、十分な情報にもとづき、徹底した議論を行い、解決策を検討する。</p>	<p>都市計画道路の整備にあたっては、「まちづくりの方針&lt;部門別&gt;」の「2 道路・公共交通ネットワーク等の方針」に地域の特性や環境への配慮について示しております。また、都市計画道路の整備による周辺のまちづくり等につきましては、市民参加により整備を進めていきます。</p>	参考意見
70	<p>市が買い取る農地に市民として関わることができるしくみを作る。</p>	<p>農業公園の整備に向けた検討の参考とさせていただきます。</p>	参考意見
71	<p>都市計画道路以外の道路の整備について、歩行や自転車走行が安全にできる道路に改善する方針を決め、危険な箇所を調査して優先的に進める。</p>	<p>歩行者や自転車利用者を大切にしたい道路空間を確保につきましては、「まちづくりの方針&lt;部門別&gt;」の「2 道路・公共交通ネットワーク等の方針」に示しております。</p>	反映済み
72	<p>災害時の緊急搬送ルートとして緑道ネットワークを形成すること（道路に車があふれ身動きとれなくなった東日本大震災の経験</p>	<p>「まちづくりの方針&lt;部門別&gt;」の「3 安全・安心なまちづくりの方針」に示しますとおり、都市計画道路によ</p>	反映済み

番号	ご意見等	検討結果	対応
	から道路は非常時の搬送ルートとして機能しないため、普段は車が入れない緑道や歩行者専用道路網を確保することが求められる)	る延焼遮断機能の構築や特定緊急輸送道路沿道の建築物の耐震化を促進するとともに、防災機能に配慮したオープンスペースも確保していきます。	
73	3章3：局地的に発生する突風（ダウンバースト、竜巻等）にも対策が必要。また、自治会・町内会の組織の在り方、運営については、新旧混在する市民環境では、行政が積極的にかかわらないと崩壊していくと考える。 (P46)	局地的な自然災害に関する対策につきましては、個別計画等の施策・取組み等の参考とさせていただきます。また、地域コミュニティの強化による防災まちづくりにつきましては、「まちづくりの方針<部門別>」の「3 安全・安心なまちづくりの方針」とおり、市としての取組みを進めてまいります。	一部反映 済み
74	意見5. 第3部 第3章 5水と緑のまちづくりの方針② P49 (1) 水と緑の「保全」と「活用」に、緑債などの具体的な取り組みを入れて下さい。 H27年度の無作為抽出アンケートにて、5小平市のみどりの保全についての問6で、自然環境や郷土風景のために、住民のみなさまに負担をお願いしている例があり、負担についてのアンケートをしており、しかも、負担をしてもよいと、少なから負担をしても良い、を合わせると44%と高い回答になっています。このアンケート結果がなぜ、活かされないのでしょうか？何のためアンケートしたのでしょうか？	平成27年度市民アンケート調査で、「小平市のみどりの保全について」を調査しておりますが、市のみどりの維持・保全に向けて、市民の方々のみどりに対する意識やお考えをおうかがいしたものです。この結果や「緑債」といったご意見につきましては、今後、本マスタープランの実現に向けた具体の施策・取組み等の参考とさせていただきます。	参考意見
75	2 小平のレガシー レガシーは何かと問われれば、まずは上水・用水と林（樹木）と言えらると思う。これらの保存・再生がまずプランの根底にあってほしいと思う。そのうえで現存する緑道や農地を大切にしつつ、次世代・高齢者にも住みやすい町として商業化・宅地化を計画する。現在水と緑をキーワードにしているが、実際には用水には水が流れていないところが多	本市では、みどりが大切であると考えているため、本マスタープランにおける「まちの将来像」は「みどりつながる快適生活都市 こだいら」となっているほか、「まちづくりの方針<部門別>」の「4 水と緑のまちづくりの方針」などで、みどりの維持・保全・活用の方針を示しております。ご意見につきましては、今後の具体の施策・	一部反映 済み

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>く、また水辺は美しいとは言えない。また、勝手に用水をつぶしている地主も見られる。保存樹木とはいえ、大木が簡単に切られている。外部の人にも美しい、また歴史を感じると思われる人を呼び込む街づくりをまず考えてほしい。</p> <p>保存・再生には費用がかかる。所有者個人にのみ負担させるのは無理があるだろう。守るには市としての支援を考えるべきである。</p>	<p>取組み等の参考とさせていただきます。</p>	
76	<p>玉川上水の環境を守ることに對して優先順位を高めるための条例を策定すること。</p>	<p>玉川上水周辺の区域は、小平市風致地区条例及び東京都景観条例に基づく東京都景観計画などにより、建築物等の制限が設けられており、環境の維持が図られております。</p>	参考意見
77	<p>○P50 水と緑</p> <p>駅前顔という表現がありましたが、小平駅前のグリーンロードは花小金井側の緑の繋がりが駅前で切れています。隣接市には働きかけ小平市の予算で「みどりつながるまち」を作ってください。</p>	<p>「顔」をもったまちをつくる」の「顔」につきましては、鉄道駅中心拠点ごとの独自の役割や機能を表現しております。ご意見につきましては、小平駅周辺地区のまちづくりの具体的な施策・取組み等の参考とさせていただきます。</p>	参考意見
78	<p>まちづくりの目標 2 における“水と緑を守る”という観点から市内に流れる用水路（特に仲町～大沼町を流れる）の保護充実を提案します。</p> <p>現在、足場用の鉄パイプと鉄板にて水路岸の崩壊を防いでいるが、費用（予算）をかけ、水路岸辺整備を望みます。又、用水路内には野生のメダカが生息しているが、流量制限による川底土が露出することにより、死滅していることが現状である。これを防ぐためにも流水の停止はやめるよう検討していただきたく存じます。</p>	<p>市の歴史を受け継いできた特徴的な風景である用水路は、水と緑のネットワークの形成に向けて重要なものと考えております。用水路の保全・活用に向けた具体的なご意見につきましては、今後の施策・取組み等の参考とさせていただきます。</p>	参考意見
79	<p>①減少し続けている農地を後世まで残し、農業がもっと活発に市民と共に土地に根ざし</p>	<p>本マスタープランにおける農地の保全につきましては、「まちづくりの</p>	参考意見



番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>た農業として発展するようなシステム・方法をとってほしいと思います。</p>	<p>方針&lt;部門別&gt;」の「4 水と緑のまちづくりの方針」などで示しておりますが、具体的な今後の都市農業の方針につきましては、個別計画に委ねられるものであると考えております。</p>	
80	<p>②市の人口の減少や車社会からの転換、緑の重要性等のことも考慮し、都市計画道路を市民全体で見直し、現代に合った都市計画を行っていきべきだと思います。</p>	<p>都市計画道路の見直しについては、平成 28 年 3 月に都区市町で策定した「東京における都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）」において行っており、必要性の検証の結果、市内の全ての未着手路線において必要性が確認されております。なお、整備方針の策定にあたっては、人口の動向など社会状況の変化も考慮しており、パブリックコメント等でいただいたみなさまからのご意見も参考にしております。</p>	参考意見
81	<p>意見 6. 第 3 部 第 3 章 5 良好な住まいづくりの方針② P52</p> <p>「良好な住宅都市として市街地の維持・形成に向けて、敷地の細分化や住宅以外の用途の建築物の混在などを防止するため、土地区画整理事業や大規模開発事業などが行われる地区においては地区計画を活用するなど将来にわたる良好な住環境の維持を図ります。」</p> <p>この条項削除希望します。意見 1 での指摘に戻りますが、人口減少・高齢化、空き家・空き店舗が問題となっているなかに、過去 10 年間とおなじように、市が予算を投じて、土地区画整理事業や大規模開発事業を行い、宅地化による市街地形成の準備をすることはいかがでしょうか？</p> <p>「敷地の細分化や住宅以外の用途の建築物の混在」を理由にしていますが、結局は農地をつぶして、宅地開発を推進することをおうたっていることになりませんか？</p>	<p>土地区画整理事業は、一定の区域内で、土地所有者から所有する土地の面積や位置などに応じて、少しずつ土地を提供してもらい、これを道路、公園などの公共施設用地等に充て、これを整備することによって、土地の利用価値を高め、健全な市街地とする事業です。敷地の細分化や住宅以外の用途の建築物の混在などを防止するだけでなく、道路などの公共施設が整備され、また災害や減災への対策にもなり、また地区計画の活用によりみどりを将来にわたり保全することができるため、整備が必要とされる区域においては、市として可能な支援を行ってまいります。</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>相続人が農業をやめられる場合において、市が生産緑地の買い取りが出来ずに住宅になってしまう例もありますが、昨年おこなわれた上水南 1 丁目の喜平橋北西部にできた「国分寺未来区」という野村不動産の取り組みを見ても大きな問題があるとも思えません。</p> <p>良好な住環境の「維持」には、全く依存はないですが、良好な住環境の「形成」については、市の予算を投じることは、過去 10 年から変えていくべき項目と考えます。土地区画整理事業に対して、予算が固定化してしまっていることで、新しい取り組みがしにくくなっているのです。人口減少、高齢化社会に対応するには、良好な住環境を形成することで、他市から人をつれてきて税収を増やすという発想ではなく、子ども世代、孫世代が小平に定住してもらえよう環境維持を目指すべきです。</p>		
82	3 章 5 (1) : 国や都の対応・対策を待つのではなく、小平色を出すべき（常に上の顔色をうかがうようです。）(p52)	良好な住環境の形成に向けては、市の地域資源を活かしながら、小平らしいまちづくりを進めてまいります。	参考意見
83	④緑が減り続け、逆に住宅が急増し、空き家まで大量に増えている現状に、非常に矛盾を感じます。大切な緑や畑をしっかりと守りつつ、空き家を活用し、住宅や資材等を無駄にせず、開発ばかりに片寄りすぎない、計画、システムを作るべきと思います。	相続等により農地が減少し宅地が増加している状況や、空き家に関する課題につきましては、本マスタープランにおいても踏まえておりますが、農地の保全や空き家の活用などにつきましては、他の個別計画などとも連携しながら取り組んでまいります。	一部反映 済み
84	全地域について、この 10 年で「どーするか」という解決策を検討し、できれば決着(=条例の制定)してもらいたいことがあります。「空き家」対策です。今までは徐々に増えてきましたが、これからは加速するでしょう。昭和 40 年代後半から 50 年代にかけて建築された戸建が相続されたものの、相続人	空き家につきましては、今後のまちづくりにおける課題であると捉えていることから、「まちづくりの方針〈部門別〉」の「1 土地利用の方針」、「3 安全・安心なまちづくりの方針」、「5 良好な住まいづくりの方針」に記載しております。ご意見等につき	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>が市内に住んでいてほったらかしにされるものが増えます。なぜ、すてられるか。①建容率が低いので再建築しようもいいものが建たない②2 項道路が多くセットバックで面積がへり建てられない。これにより売ろうとしても 2 束 3 文になってしまうので放置する。というものが良く見られますね。又、古家の一部がくずれて屋根の 1 部があたりそうになったということをお聞きしますか。危険ですね。「まちづくり」というキャッチコピーも重要ですが、「まちの古い部分をつくりなおす」というのも入れたらいかがでしょうか。再建築できない、価値が下落するのは致し方ないと思います。町の安全を確保するには必要な法律だからです。これはあくまでも素案ですが、「空き家」の放置には固定と都市計画税の追徴（プラス）するとか。</p>	<p>ましては、今後の空き家等対策における具体的な施策・取組み等の参考とさせていただきます。</p>	

#### ■ 第 4 部 地域別構想

番号	ご意見等	検討結果	対応
85	<p>○P62 イメージパース</p> <p>3・2・8 号線で分断された街の風景としか見えません。</p> <p>玉川上水に掛っているのはもはや橋ではなく、道路につぶされた玉川上水の光景です。少し左側まで入れれば現府中街道が入るのではないのでしょうか。</p> <p>道路が出来るころには自動車が少なくなっているのでしょうか。本当にこの道路は必要だと思っていますか。</p>	<p>広域ネットワークを形成する都市計画道路は、円滑な交通ネットワークの形成や、自然環境、防災、にぎわい創出などの観点から、必要であると考えておりますが、地域別構想の「西地域のまちづくりの方針」で示しますとおり、府中所沢線（小平 3・2・8 号線）は、周辺環境と調和した空間となるよう東京都と協力して整備を進め、また、この道路の整備によって役割が変わることが想定される府中街道については、地域住民とともに沿道の一体的なまちづくりを検討していきます。</p>	参考意見
86	<p>・小川駅西口再開発について</p> <p>タワーマンションを核としたところで、小川の「顔」や小川の「未来のまち」を現すものになるとは思えません。</p>	<p>小川駅前周辺地区につきましては、市民参加により策定した「小川駅前周辺地区まちづくりビジョン」において、市街地再開発事業によって整備さ</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
		れるタワー型の複合住宅施設を地区のシンボルとしております。	
87	<p>意見 7 第 4 部地域別構想 1 -2 西地域のまちづくりの方針 P60</p> <p>「小川四番土地地区画整理事業が検討されている地区は、農地がもたらすみどりを意識した住環境の形成に配慮します。」この条項削除希望します。意見 1 や 6 で述べたとおりですが、このエリア、北は、西武拝島線で行き止まりと、西は教習所で行き止まり、南は、青梅街道に囲まれた狭いエリアです。ここで使う道路や公園は、北西部にアプローチできないため公共性があるとは言えません。この 1 項をもって、都市計画マスタープランに書かれているから進めるといわれるのなら、その合理性を市のホームページなどで、きちんと市民に説明することを約束して下さい。もし地権者さんから要請があるなら、このような土地こそ、農業公園として保存すべきではないでしょうか？</p>	<p>小川四番土地地区画整理事業は、相続等による農地の個別開発等に伴う無秩序な市街化を防止し、農・住・緑の調和の取れた計画的な宅地化と農地の保全を図るため、地元地権者により構成される組合施行による事業となっております。これにより、道路・公園等の公共施設が一体的に整備された健全な市街地を形成し、安全性、防災性、利便性の向上したまちづくりを推進することができます。このようなことから、農業公園とすることは市としては考えておりません。なお、当該地の北側につきましては、現在でも歩行者・自転車は通り抜けができますが、事業により自動車の通り抜けができる方向で関係機関と調整をしております。</p>	反映しない
88	<p>意見 8 第 4 部地域別構想 1-2 西地域のまちづくりの方針 P61</p> <p>「市内の円滑な道路交通ネットワークを形成する都市計画道路である府中所沢線（小平 3・2・8 号線）、小川橋青梅橋線（小平 3・4・24 号線）については、西地域の風景や環境に配慮した整備を進めるよう東京都へ引き続き働きかけます。」</p> <p>上記について、以下のように具体的にすることを希望します。都市計画マスタープランは、開発と保全の方針が記載されます。両者は両立できず、課題が残りますが、その課題をクリアにしてそれでも整備が必要であるので、最大限環境に配慮をする意思表示を示すことが必要と考えます。</p> <p>H26 年の無作為抽出アンケートにおいても、小平中央公園の東側の雑木林保存につい</p>	<p>都市計画道路の整備にあたっては、基本的な方針として、地域の特性や環境への配慮が必要であると考えていることから、「まちづくりの方針＜部門別＞」の「2 道路・公共交通ネットワーク等の方針」にその旨を示しているところですが、府中所沢線（小平 3・2・8 号線）、小川橋青梅橋線（小平 3・4・24 号線）につきましては、さらに地域別構想の「西地域のまちづくりの方針」においても、改めて西地域の風景や環境への配慮を示しているところです。具体の取組みにつきましては、東京都への働きかけや協力により進めてまいります。</p>	反映しない

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>での自由記述の意見がたくさん出ています。それでもやらなければいけないということを確認するために具体的に課題の記述をお願いします。</p> <p>「市内の円滑な道路交通ネットワークを形成する都市計画道路である府中所沢線(小平 3・2・8 号線)、は、小平中央公園の東側に雑木林の約半分を消失してや玉川上水と交差し、小川橋青梅橋線(小平 3・4・24 号線)についても玉川上水と交差することから、西地域の風景や環境に配慮した整備を進めるよう東京都へ引き続き働きかけます。」</p>		
89	<p>意見9 第4部地域別構想 第2章 1-2 西地域のまちづくりの方針 P61</p> <p>以下を追加して下さい。</p> <p>「小川橋青梅橋線(小平 3・4・24 号線)とともに整備される新五日市街道線(小平 3・3・3 号線)の一部区間の整備によって、小川用水の彫刻の谷緑道が暗渠となる部分ができるため、その整備については、環境に配慮した整備を進めるように東京都に引き続き働きかけます。」</p>	<p>都市計画道路の整備にあたっては、基本的な方針として、地域の特性や環境への配慮が必要であると考えていることから、「まちづくりの方針&lt;部門別&gt;」の「2 道路・公共交通ネットワーク等の方針」にその旨を示しているところですが、小川橋青梅橋線(小平 3・4・24 号線)につきましては、さらに地域別構想の「西地域のまちづくりの方針」においても、改めて西地域の風景や環境への配慮を示しているところです。具体の取組みにつきましては、東京都への働きかけや協力により進めてまいります。</p>	反映しない
90	<p>意見10 同 P60</p> <p>また小川用水に平行した「たから道」や歴史的な資産である新堀用水の「胎内堀」などの小平のふるさとの風景の保全を図ります。歴史的な資産である新堀用水の「胎内堀」は削除するか、別の表現にしてください。</p> <p>現実には、都営中島町アパートの北部の胎内堀が、コンクリートで補強され、3Dプリンターでつくるミニチュアを展示する方向で検討されていると聞いていますが、事実をご確認ください。そうであれば、胎内堀の保</p>	<p>「胎内堀」につきましては、小平のふるさとの風景を損なわない形で保全の方策が検討されております。なお、「3Dプリンターでつくるミニチュアを展示する方向で検討」につきましては、そのような事実は確認しておりません。</p>	反映しない

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>全は不可能です。まじめに読んだ市民ががっかりするようなことを、無理して書くことはないと思います。</p>		
91	<p>意見 11 第 4 部地域別構想 第 2 章 1-2 西地域のまちづくりの方針 P65</p> <p>駅西口地区の整備により増加する交通量にふさわしい道路の確保と二中通りや中宿通りへの通過交通を減少させる必要があるため、優先整備路線となった小平大和線（小平 3・4・10 号線）の整備は、鉄道との立体交差により駅の東西方向を結び、歩行者や自動車などが安全に通行できる道路幅員を確保し、駅周辺の交通の円滑化を図ります。</p> <p>小平大和線（小平 3・4・10 号線）の整備については、周辺住民へのアンケートでも早期実現を望む声があり、しかもアンダーパスが指示されているようで、すでに説明会を開催しているようですが、一市民として納得が出来ません。多額な費用がかかるアンダーパスという方向性を再検討してください。都市開発部に質問したところ、総費用は不明としながら、新小金井街道のグリーンロード立体での施工費用 95 億円（国、都の補助金で 75%）よりは少額になる見通しという回答でした。現在のこぶし通りの交通量が 7 時-19 時の交通量が 3000～3500 台という調査結果も頂いています。この工事のために公費を最大 95 億円使うことが合理的に説明できますか？1 日 2 万台以上の交通量のある新小金井街道のような幹線道路とはまったく事情が異なります。小川駅西口通り（都道 131）が、今回の小平 3・4・10 と交差してしかもアンダーパスであるため、大回りしないと通過出来なくなるデメリットを伴います。アンダーパスにするなら青梅街道にある踏切や、小平駅北口のあかすの踏切など、無作為抽出アンケートなどで要望がでている踏切があるのではないですか？交通量が</p>	<p>優先整備路線に位置づけられた小平大和線（小平 3・4・10 号線）の整備については、これまで行ってきたアンケート調査やオープンハウスでの意見等を参考にしながら、調査、研究を進めてきた結果、アンダーパスで工事を進める方法が最適であると考えております。</p> <p>また、本路線の主な整備効果としましては、二中通りや中宿通りに進入する通過交通の減少による渋滞緩和、歩行者や自転車の安全性、快適性の確保、小川駅西口地区で取組が進む再開発事業と連携したまちづくりの促進や、災害時の安全な避難路の確保による防災機能の向上などが期待できます。</p> <p>なお、市全体の整備の優先度などにつきましては、個別計画等に委ねられるものと考えております。</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>多くない小平 3・4・10 号線に多額な公費をかけてアンダーパスにするのは説明が付きません。小平 3・4・10 のこのエリアのアンダーパスについては、再検討するべきです。東京都との第四次整備化計画の優先整備路線となったことを強調していますが、その前に割り当てるべき開発はあるはずです。</p>		
92	<p>意見 12 第 4 部地域別構想 第 2 章 1-3 鉄道周辺地区のまちづくりの方針 P63</p> <p>「小川駅西口地区の市街地再開発事業は、土地の高度利用による住宅、商業施設、公共公益 施設などが入った高層タワーを地区のシンボルとして、・・・・地権者を中心とした組合と連携して、民間活力を導入したまちの一体的な整備を推進します。」について、意見します。</p> <p>経緯を見ると、小川駅前周辺地区まちづくりビジョンを、再開発準備組合以外の自治会、商工会、ブリジストンなどを交えてつくって、方向性を確認しているので、狭い範囲ではありますが民意を確認して、丁寧に仕事を進めていると思います。但し、H26 年の 9 月の小平市議会まちづくり特別検討委員会で、組合施行による高層タワーを住宅として販売することによって、再開発に必要な工事費用を捻出することについて、建設費高騰で、頓挫したはずですが、なぜ、懲りずに同じ方向での検討を続けているのでしょうか？再度高層タワーでの計画を進めて、事業者に採算があわないと判断されたようになるのでしょうか、さらに検討期間が延びてしまいます。平成 4 年には、協議会ができて検討がはじまったと認識しています。</p> <p>何年、市の予算を投じているのでしょうか？H18～H27 だけでも、決算書によれば、5 千万円もの費用を使っています。修正案として、「小川駅前周辺地区まちづくりビジョン」で示された方向性での検討を中心とし</p>	<p>「小川駅前周辺地区まちづくりビジョン」は、現マスタープランの地域別構想を補完するものとして、市民参加で策定されたものです。ここでは、市街地再開発事業による駅前広場を含む小平都市計画道路 3・4・12 号線及びタワー型の複合住宅施設の整備、小平都市計画道路 3・4・10 号線の整備など、小川駅前周辺地区の具体的な取組方針を示しております。</p> <p>小川駅西口地区市街地再開発事業につきましては、社会経済状況の変化により、一時は計画の見直しを要することとなりましたが、現在は小川駅西口地区市街地再開発準備組合を中心に検討が進んでおり、市としても支援しているところです。ご意見につきましては、今後の具体的な施策・取組み等の参考とさせていただきます。</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>ながらも、都市計画決定されている駅前広場および乗り入れ道路の小平3・4・12の施行についての整備も併せて検討するなどの表現にして柔軟な対応ができるようにしてください。</p>		
93	<p>鉄道の駅中心に町作りするの良いですね。他の地域から町に初めて来るのは鉄道が多いので、町の第一印象は駅前になることが多いので、鷹の台の駅前が活性化出来れば良いですね。</p> <p>学生街という町にはなっていないのでこの機会に学生街にしてみたいか。</p> <p>鷹の台の特徴の公園を憩い場としてもっと整備して利用できるようにしたい。</p> <p>(中央公園は運動場と大学の通学路)って感じなので"</p>	<p>鷹の台駅周辺につきましては、地域別構想の「西地域のまちづくりの方針」などで示しておりますとおり、鷹の台駅西側の小平都市計画公園(3・3・4鷹の台公園)の整備や、地域の大学などと鷹の台駅周辺の商店街との連携による交流の場づくりなどにより、鷹の台駅周辺のまちの活性化を図ります。</p>	反映済み
94	<p>西地域は早めに道路を整備しないと他の市とのからみがあるからすすめた方が良いと思います。</p>	<p>広域な道路ネットワークを形成する都市計画道路につきましては、早期実現に向けて引き続き取組みを進めます。</p>	反映済み
95	<p>小川はブリヂストンの縮小があるので空地があるのならブリヂストンから土地を借りて保育園なり作るなどした方が良いと思います。</p>	<p>ご提案の土地については現時点では事業計画案が決まっていないため、参考意見とさせていただきます。</p>	参考意見
96	<p>鷹の台はバス停やタクシー乗り場が無い時点でダメだと思うのでそこら辺ができればと思います。</p>	<p>鷹の台駅に駅前広場が未整備であることは課題であると考えておりますので、地域別構想の「西地域のまちづくりの方針」に基づき、鷹の台駅周辺のまちづくりを進めてまいります。</p>	参考意見
97	<p>P62 まちづくりに市民参加を掲げる以上、中島町の焼却施設建て替えについてもその検討委員会には市民公募の委員を入れるのが当然です。すでに設けられた「懇談会」に</p>	<p>小平・村山・大和衛生組合のごみ処理施設の更新に関する「新ごみ焼却施設の整備に係る懇談会」は、小平・村山・大和衛生組合のごみ処理事業に関</p>	参考意見



番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>市民公募委員が入っていないことは大問題で、ただちに市民公募を実施するよう求めます。</p>	<p>する連絡協議会の地域住民代表者も含めた委員で構成されており、市民が参加しています。</p> <p>市民公募が必要とのご意見につきましては、今後の具体の取組み等の参考として、小平・村山・大和衛生組合に情報提供させていただきます。</p>	
98	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小平駅北口の再開発について</li> <li>・東京街道から駅に通じる道路、駅前ロータリーの整備のみでよい。(消防車、バス、タクシーなど)</li> <li>・業者の利益を考えたのタワーマンションはいいらない。</li> <li>・現在すんでいる人が健康で快適な生活ができることを第一に考えるべき。</li> <li>・代々受けつぎ、これからも受けついでいきたいと考えている個人の宅地は簡単に手離せるものではない。</li> </ul>	<p>小平駅周辺の拠点性を高めることは、「まちの将来像」や「まちづくりの目標」の実現に必要であることから、市としては市街地再開発事業を支援していきたいと考えておりますが、具体的な事業につきましては、今後の取組み等の参考とさせていただきます。</p>	参考意見
99	<p>○P72 小平駅周辺地区</p> <p>ここに開発が必要なのは納得します。周辺住民の希望でもあり、時々周辺を利用する私も賛成します。しかし要望する街のイメージはロータリーが出来周辺に商店が取り囲む光景です。そこには商店の人も住み、周辺には優良な低層住宅があれば良いと思っています。高層ではなくても低層高密度住宅という手もあります。大手ゼネコンでなくても施工可能な建築です。そこには新たに路地も創られ魅力あふれる環境が生まれると思います。ヨーロッパの都市のように。</p> <p>高層住宅の下に商業施設という図柄は、もう古いし、採算も悪いはずです。施工価格にコストを掛けるのではなく、設計コストにかければみんなから喜ばれる環境が生まれることでしょう。同じことは小川西口地区でも言えます。</p>	<p>小平駅北口地区や小川駅西口地区は、公共交通への乗継ぎやまちのにぎわいの低下など、多くの課題を抱えていることから、現在、市街地再開発準備組合において、市街地再開発事業の実施による、課題解決に向けたまちづくりの検討が進められており、市としては市街地再開発事業を支援していきたいと考えております。</p> <p>なお、市街地再開発事業においては、地上部に人が交流できるようなオープンスペースを多く設けるため、建物については高層化を図ることも必要となります。</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
100	<p>P72 小平駅北口にロータリーを設け、バスも乗り入れられるようにするなど整備には賛成ですが、タワー型のマンションは、小平霊園とつながる、のどかな緑と広い空のある雰囲気と合わないので反対です。せめて5階ぐらいのゆったりとした住宅地の広がる駅前にしてほしいです。</p> <p>開かずの踏切対策とありますが、立体交差の計画がない以上、踏切の開く時間は変わらないはずですが、どのような改善策がありうるのか、示すべきだと思います。踏切の人と自転車の通路を広げることは必須だと思います。</p>	<p>小平駅北口地区の課題解消には、駅前広場や道路などの整備にあわせて商業施設や住宅施設を一体的に整備する市街地再開発事業が適していると考えております。再開発事業では、地上部に人が交流できるようなオープンスペースを多く設けるため、建物については高層化することも必要となりますが、ご提案の内容につきましては、参考とさせていただきます。</p> <p>また、「開かずの踏切」対策につきましては、小平駅周辺地区のまちづくりの具体的な施策や取組みを検討する中で、関係機関と調整しながら進めてまいります。</p>	参考意見
101	<p>3・4・19号線について、小平駅前+東京街道部分~霊園+東久留米部分の統一性・連動性(行政)がないと実現は不可能だと考えます。</p> <p>その場合、まず優先順位として駅前の整備が必須だと思います。駅前の街路事業計画(なんと50年以上前の)がよいのか再開発がよいのか、合わせた考え、もしくは全然違う案(第3案)がないのか、見なおしをして頂きたい。</p>	<p>本マスタープランでは、地域別構想の「鉄道駅周辺地区のまちづくりの方針&lt;小平駅周辺地区&gt;」などで、小平駅周辺地区の拠点性を高めるため、小平駅北口地区の市街地再開発事業や小平駅久留米線(小平3・4・19号線)の整備を進めるとしております。</p> <p>3・4・19号線の整備に向けましては、隣接する東久留米市とも調整、連携を図りながら進めてまいります。</p>	参考意見
102	<p>小平駅東久留米線(小平3・4・19号線)の路線整備は理解できる。同時に防災に関わる多摩済生病院への道路整備の実施を望む。</p>	<p>小平駅久留米線(小平3・4・19号線)につきましては、第四次事業化計画における優先整備路線に選定されており、小平駅北口の駅前広場や東京街道以北の街路部分について、各施行者が整備を推進してまいります。本路線に関連したその他の道路の整備につきましては、ご意見として参考とさせていただきます。</p>	参考意見
103	<p>小平と言えば霊園と言われる小平駅は霊園の表玄関である。北口にタワー型(高層)</p>	<p>小平駅北口地区や小川駅西口地区は、公共交通への乗継ぎやまちのにぎ</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>の共同住宅は景観を損なう。土地の高度利用を優先せず、本来の住み良いまちづくりを再検討することを望む。</p>	<p>わいの低下など、多くの課題を抱えていることから、現在、市街地再開発準備組合において、市街地再開発事業の実施による、課題解決に向けたまちづくりの検討が進められており、市としては市街地再開発事業を支援していきたいと考えております。</p> <p>なお、市街地再開発事業においては、地上部に人が交流できるようなオープンスペースを多く設けるため、建物については高層化を図ることも必要となります。</p>	
104	<p>意見 13 第 4 部地域別構想 第 2 章 2-2 中央地域のまちづくりの方針 P69</p> <p>「小平らしい農を身近に感じる農業公園として小平都市計画公園（3・3・1 鎌倉公園）の整備を検討するなど、訪れたい魅力となる魅力的なまちづくりを進めます。</p> <p>また、公園整備にあたっては、隣接する新五日市街道線（小平 3・3・3 号線）の一部区間などの周辺の基盤整備も検討し、青梅街道駅周辺との回遊性を高めるまちづくりのあり方を検討するなかで、健康増進にもつながるまちづくりを進めます。」について意見します。</p> <p>なぜ、農業公園と併せて、小平 3・3・3 を作るのでしょうか？このエリアは、東京都からも小平 3・3・3 の優先整備路線に指定されていません。それにも係わらず、唐突に農業公園とともに、小平 3・3・3 を検討すると記載することが理解できません。山王通りから、小川二丁目の小さな西側の路地まで、小平 3・3・3 をつくって、市民・都民にどんな利便性がうまれるのですか？健康増進？とってつけたような理解できない理由です。都に予算をつけるからやれ、農業公園とバーターにして、つくれと言われてからとしか思えないような不自然さがあります。将</p>	<p>農業公園につきましては、地域別構想の「中央地域のまちづくりの方針」に示しておりますとおり、新小平駅周辺が有する青梅街道駅との人の往来によるにぎわいの創出や市外からの来訪者が期待できるという特性から、観光まちづくりに向けた取組みとしても、小平都市計画公園（3・3・1 鎌倉公園）の農を身近に感じる空間としての整備を検討しているところです。</p> <p>また、公園整備が進む場合は、周辺の新五日市街道線（小平 3・3・3 号線）についても、地域のまちづくりの一環として、新しいまちの機能も必要になると考えられることから、整備の検討を行う必要があると考えております。</p> <p>このような魅力ある空間や都市基盤の整備により、市民の外出や歩く機会を促し、健康まちづくりに寄与するものと考えます。</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>来の布石として整備計画としかいいようがありません。意味不明の説明で、都市計画マスタープランにねじ込むようなやり方は、断固として反対します。</p> <p>また、農業公園、この位置につくるのは何故でしょうか？このエリアの農家は、ぶどう、なしをつくっており、このエリアのたかの街道は、こだいらフルーツ通りと呼んでいる人がいるくらいの観光資源にもなっている場所です。農業公園にしてしまったら、果物の栽培は維持出来るのですか？農業公園をつくることには賛成しますが、この場所をつかうことには賛同出来ません。</p>		
105	<p><b>2、69p②良好なみどりの空間の保全・活用について</b></p> <p>「新小平駅周辺の景観形成に配慮するとともに、小平らしい農を身近に感じる農業公園として小平都市計画公園（3・3・1鎌倉公園）の整備を検討するなど、訪れたい魅力あるまちづくりを進めます。また、公園整備にあたっては、隣接する新五日市街道線（小平3・3・3号線）の一部区間などの周辺の基盤整備も検討し、青梅街道駅周辺との回遊性を高めるまちづくりのあり方を検討するなかで、健康増進にもつながるまちづくりを進めます。」とあります。</p> <p>個人的にはアダプト制度は課題が多いと思っておりますが、農業公園の保全を市民参加でできないでしょうか。また、幹線道路と農業公園とで、どのように調和がとれた風景になるのか、また健康増進につながるのかは疑問です。</p> <p>以下の追加を提案します。</p> <p>「農業公園の保全・活用は市民参加ですすすめます。」</p> <p>「農業公園では、けやきや雑木の林、茶の防風垣等小平の原風景を再現します。」</p>	<p>地域別構想の「中央地域のまちづくりの方針」などに示しておりますとおり、農業公園として小平都市計画公園（3・3・1鎌倉公園）の整備によるにぎわいと憩いの場の創出や新五日市街道線（小平3・3・3号線）の一部区間の基盤整備により周囲の回遊性を高める中で、健康増進にもつながるまちづくりを進めてまいります。整備に向けた具体のご意見につきましては、今後の取組み等の参考とさせていただきます。</p>	反映しない

番号	ご意見等	検討結果	対応
106	<p>東地域のまちづくり方針〈花小金井駅周辺〉についての意見</p> <p>①にぎわい拠点としての充実・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅南口の商店街をもっと活性化させたい。人を呼び込める造りにしてほしい。</li> <li>・マンション、戸建てが増え、人口が増加するスピードと量に比べ、店やパブリックな場所が追いついていないと感じる。外食店が少ない。</li> </ul>	<p>花小金井駅周辺のまちづくりにつきましては、「鉄道駅周辺地区のまちづくりの方針〈花小金井駅周辺地区〉」等に記載しておりますが、新五日市街道線（小平 3・3・3 号線）の整備促進とこれに伴う鉄道立体化の実現を契機として、駅の南北にわたった一体的なまちづくりが可能となることから、市の中心的なにぎわいの創出と周辺のみどりが融合した魅力的なまちの形成に向けて検討を進めます。ご意見につきましては、今後の具体の施策・取組み等の参考とさせていただきます。</p>	反映済み
107	<p>②マンションばかり増えて緑が減っている気がする。（小平在住 40 年以上の身として）みどりの町、東京のプチ田舎をうたっているのにそれでは矛盾していないか。農業が少しずつ若者に流行ってきている今、緑、農業をもっと大切にしていけないといけなと思う。</p>	<p>「プチ田舎」は、小平市観光まちづくり振興プランにおけるキャッチフレーズでございますが、本マスタープランにおいても、小平市観光まちづくり振興プランの基本的な理念は踏まえて策定しております。また、農業に関しましては、「まちづくりの方針〈部門別〉」の「4 水と緑のまちづくりの方針」に記載しておりますとおり、農地の保全を図ってまいります。</p>	反映済み
108	<p>意見 16 花小金井周辺 P78</p> <p>「一方、新五日市街道線（小平 3・3・3 号線）は、小平グリーンロードや既存の商店街と重複する箇所も見受けられることから、みどりの保全方策や周辺住民の利便性確保に向けた検討を地域住民とともに進めていく必要があります。」</p> <p>新五日市街道線の新小金井街道以東が、優先整備路線になる第四次事業化計画の審議の過程で、小平市は、東京都に意見を述べていません。それは市議会 生活者ネットワークからの H27 年 12 月 21 日の質問への小平市からの回答でわかっています。小平市の鈴</p>	<p>多摩地域の東西交通円滑化に資する骨格幹線道路の一つである、新五日市街道線（小平 3・3・3 号線）の優先整備路線の選定については、施行主体である東京都の検討において位置付けられた結果であると理解しております。</p> <p>なお、ご要望の文言につきましては、「花小金井駅周辺地区の状況」の項目となっておりますので、修正をする考えはございませんが、「花小金井駅周辺地区のまちづくりの方針」の項目において、新五日市街道線（小平 3・</p>	反映しない

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>天商店街、光が丘商店街、小平グリーンロード、これらは小平市民にとって大きな財産です。財産をつぶしてしまうことを知らずに、東京都に意見をしなかったわけではないはずです。小平市都市開発部として、自分たちが第四次事業化計画で意見をしなかったのですから、責任をもって近隣住民へ対応下さることを希望します。以下の修正要望です。地域住民とともに行っていく必要があります。⇒地域住民とともに行っていきます。</p>	<p>3・3号線) 沿道のまちづくりの市民参加については示しております。</p>	
109	<p>P77 鈴木遺跡は 4 万年前にも遡る旧石器の貴重な遺跡であり、国指定史跡化をぜひ実現し、資料館もプレハブではなく、お金をかけて立派なものを作って欲しい。発掘遺跡を含む一帯を原っぱ広場にするのは良い考えだと思います。</p>	<p>鈴木遺跡につきましては、国や東京都などと調整しながら保存を図るとともに、国指定史跡化をめざして、市民の誇りとして親しまれる地域の文化・交流拠点の創出を図ります。</p>	参考意見
110	<p>P78 五日市街道と青梅街道の間がそれほど遠くないのに、住民に立ち退きを強制し、鈴天商店街など昔ながらの風情のある商店街をつぶしてまで、3・3・3号線を優先して作る必要性はないと思います。みんなが忘れたような古い道路計画を見直しもしないのは行政の怠慢です。市民の生活を守るため、しっかり都と相談し、「都民ファースト」を掲げる知事が道路計画も見直すよう真剣に働きかけてください。</p>	<p>広域ネットワークを形成する都市計画道路の整備につきましては、物流の確保、アクセス向上、防災、にぎわい創出、環境などの観点から総合的に検討し、優先度を判断しております。</p> <p>なお、新五日市街道線(小平3・3・3号線)の整備にあたりましては、沿道の多様な地域特性を踏まえた土地利用を図ってまいります。</p>	参考意見
111	<p>プラン全般に美化・抽象的な表現が多く、数値目標化は出来ないものでしょうか。西武線の各路線の整備(地下化/高架化)については、小田急線や京王線で実現化されており、これを参考に少なくとも新宿線について早期に実現してもらいたい。地下化は高価となるが、地上が幅広く使える利点があり、この方法を希望する。また当該線の終点をJR新宿駅まで延線し、利便性・効率性・集客力をアップして小平に人を呼び込みまし</p>	<p>都市計画マスタープランは、「都市計画に関する基本的方針」を示すものですので、具体的な事業計画や財政面などは、個別の計画や施策等に委ねられるものと考えております。</p> <p>また、鉄道は、「将来の都市構造」を形成する連携軸としており、また、鉄道立体化の実現に向けては、地域別構想の「東地域のまちづくりの方針」等で示しますとおり、関係機関に働き</p>	一部反映 済み

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>よう。</p> <p>つい最近、国分寺線と多摩湖線の廃線がマスコミに取り上げられましたが、この件は今後も考えておくべき事件で、このプランには記載できないでしょうが、最悪のシナリオとして、腹案を持っておく必要があると考えます。</p> <p>プランの構想的には素晴らしいが、これらを実現するための財政的なことが全く触れられておらず、厳しい表現ですが、絵に描いた餅にならないよう一市民としても頑張りたいと思います。</p>	<p>かけながら、花小金井駅周辺のまちづくりを進めてまいります。具体的なご意見につきましては、今後の施策・取組み等の参考とさせていただきます。</p>	
112	<p>私は玉川上水沿いの道を散歩したり多摩湖自転車道を自転車でゆっくり走るのが大好きです。そこだけは周囲と違って時間が流れないような、あるいはいつか昔の時間とすれ違うような不思議な気持ちになったりします。それもこれも先人から引き継いできた貴重な自然を大事に保全してきたからこそこの賜物です。</p> <p>先日小平市の友人から小平の新道路計画の中で、複数の新計画道路が玉川上水あるいは小平グリーンロードと交差するところが何か所もあると聞き、数年前にマスコミでも話題になった鷹の台駅付近のどんぐり林だけじゃなかったのだと驚きました。</p> <p>最近の新規格道路建設では「緑を活かす」とか「沿道の緑化」とか、緑の環境に配慮する姿勢が必ず示され、そのことで道路建設のために破壊される自然をチャラにするような塩梅にも見受けられます。しかし再整備されて造られた緑化（植樹）は、昔からの並木や雑木林とは似て非なるものです。たとえば小平市マスタープラン改定素案の61頁に示されたようなイメージ図を見て、豊かな緑が精いっぱい残された素晴らしいデザインだと住民は思うのでしょうか？私には玉川上水の遮断にしか見えません。道路建設が進むと</p>	<p>本市では、玉川上水などで構成する小平グリーンロードをはじめとした、多くのみどりが大切であると考えているため、本マスタープランにおける「まちの将来像」は「みどりつながる快適生活都市 こだいら」となっているほか、「将来の都市構造」でも小平グリーンロードを連携軸と位置付けるなど、みどりの維持・保全・活用の方針を示しております。一方で、今後のまちづくりにおいては、鉄道駅周辺の利便性向上や道路交通ネットワークの充実も重要であると考えております。そのため、市のみどりを維持・保全・活用しつつ、利便性の高い住みよいまちづくりを進めてまいります。</p> <p>なお、「まちづくりの方針＜部門別＞」の「2 道路・公共交通ネットワーク等の方針」に示しておりますとおり、優先整備路線以外の都市計画道路については、東京都と連携しながら、今後の都市計画道路のあり方について検討していきます。</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>ともに、このような交差部のせめぎ合いで昔からの自然の姿が変えられてゆくのは残念でなりません。</p> <p>例えば現在の多摩湖自転車道はいくつもの一般道とゆずり合い折り合いしながら進み、道に優劣が付きにくい様相です（例外は新小金井街道ですね）。しかしこれからの計画道路建設では 61 頁のイメージ図のように、なんだかんだいっても結局新道路が優越性をもって昔からの自然の姿を整形させて従えて行くのでしょうか？それはとても残念な考え方で、本来の自然保護とは本質的に違うものだと思います。</p> <p>渋滞解消の大義のために新しい道路を造り続けるより、むかしみちの再考、再整備、自然の保全に力を入れるのが温故知新ではないかと思わずにいられません。</p> <p>車の通れないグリーンロード、自転車も通れない玉川上水遊歩道は、これからますます希少価値が高まる小平市の宝です。「道を譲る」というのは奥ゆかしい表現ですが、そのような宝物の道がありふれた産業道路に「道を譲る」さまはおろかしくありませんか？</p>		
113	<p>これから人口が減っていく時代です。マスタープランはそうした時代の変化をもっと反映するべきだと考えています。特に玉川上水やグリーンロードを分断する都市計画道路は慎重な見直しが必要だと思います。これにより花小金井の光が丘商店街は壊滅的な影響を受けます。道路よりも活気ある商店街の維持にリソースを割くべきでしょう。また、農地の維持が難しい今、どんどん宅地化されていますが、これに対しても歯止めをかける政策が必要です。小川駅西口再開発に関してもハコモノありきの開発を見直すべきです。高層マンションは一時はプラスになる施策かもしれませんが、30年、50年後までの事を考えると負の遺産になる可能性が高</p>	<p>本マスタープランでは、小平グリーンロードをはじめとしたみどりの維持・保全を図りつつ、将来の都市のあり方においては、鉄道駅を中心とした利便性の高い生活圏の形成と、メリハリのある役割・機能分担と互いの交流を支える連携軸の強化を図ることが必要であるため、地域特性や環境に配慮しながら、市街地再開発事業や都市計画道路の整備などの取組みも進めてまいります。具体的なお意見につきましては、今後の施策・取組み等の参考とさせていただきます。</p>	一部反映 済み



番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>い。市もよかれと思って政策を実施していると思いますが、現状では結果的にそこに住む市民の利益につながらない、むしろ残念な結果になっていると思います。マスタープランは現実を精査し、これからの時代を見すえた持続可能なプランへと変更するべきだと思います。</p>		
114	<p>③駅前開発等によって、大きなビルを建てることは考え直すべきだと思います。町のあり方は全体の意見もふまえて、慎重に考えたいと思います。</p>	<p>「まちの将来像」や「まちづくりの目標」の実現に向けて、市としては市街地再開発事業を支援していきたいと考えております。具体的にご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>	参考意見
115	<p>小川駅西口、小平駅北口にはそれぞれ市街地再開発事業が計画されていますが、その計画には超高層タワー型の複合住宅施設を中心に据えるという方法の一つだけが提示されています。小平市全体のまちづくりの観点からこの方法を抜本的に見直すべきだと思います。</p> <p>「高度に集約したまち」の発想は、これから迎える高齢化社会のあり方に適合すると思われまます。しかしながら商業施設や公共公益施設などが入った超高層タワー型の複合住宅施設を中心に据えるという方法は、人口減少が起こる日本の都市空間においては財政的にも危ういものだと想像でき、また小平市のまちづくりの目的や理念からもかけ離れ、市が本来持っている本来の活力を削ぐ結果となりかねません。</p> <p>当然この開発への投資は、人口減少を背景として、確かなシミュレーションによって導かれた計画でなければならないはずですが、同時に小平市のなかだけを考えて計画するものではなく、中央線沿線の国分寺駅北口や武蔵小金井駅南口、立川駅北口など、これからも大規模な開発が続く近隣の他の地域と</p>	<p>本マスタープランでは、「将来の都市構造」において、超高齢社会・人口減少などの社会背景を踏まえ、全ての駅周辺に等しく同じ役割や機能を求めるのではなく、それぞれの拠点の特徴を活かし、互いの役割や機能を分担しあい、不足する機能は他の都市も含めた拠点ごとの連携により補う関係性を構築する都市の形成が必要であると考え、これまでの鉄道駅を中心とした利便性の高い生活圏の形成をめざすという基本的な考え方は踏襲しつつ、メリハリのある役割・機能分担と互いの交流を支える連携軸の強化を図ることで、市全体としての都市機能の向上をめざすこととしています。</p> <p>これを受けて、地域別構想では、「鉄道駅周辺地区」として小川駅周辺、小平駅周辺、花小金井駅周辺を位置づけ、小川駅周辺及び小平駅周辺につきましては、都市機能の集積など拠点性を高めるまちづくりに向けて、市街地再開発事業などを示しているところ</p>	一部反映 済み

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>の競争のなかで、小平市への集客や住民の増加を可能にするものでなければなりません。現在の再開発計画はその勝ち負けのリスクに対してあまりにも無頓着すぎる内容に映ります。いたずらに規模を拡大する安易な地域再開発は、逆に本来のまちづくりにとって大きな障害となります。</p> <p>つまり一部の地権者や、開発によって利益を得る事業者を中心とした組合による市街地再開発事業として推進させる方法が、たいへん狭い範囲での利権の幻想に踊らされてるだけの結果を導き、本来のまちづくりを阻害する要因となっているように思われるのです。そのような部分最適化、あるいは本来のまちづくりを無視した時間的な延命措置としての開発は、抜本的なまちづくりのビジョンにはなりえません。人口減少が起こる中で、街の固有性をなにひとつ関挙げることなく、近隣と類似した、さらには近隣の街の開発に遅れをとって進める事業に、大きな危うさが伴うことは明らかです。</p> <p>ここでは、人口減少のなかでコンパクトシティの方策を背景にしつつ、原点から検討する小平市固有の市街地再開発が必要だと思います。それは、街の共同体の機能を活性化するという最も合理的な街の姿への都市機能を交換しつつ、コンパクトに集約することが目的であって、都市機能の増設による集客によって、単に来訪者や住民を増やすことから始まるものではありません。国や都からの補助金を前提とした超高層タワー型の施設を作ることとは異なって、高齢化社会の中に住みやすい本来の「高度に集約したまち」の形を設計することはたいへん困難ではありますが、それを見つけることに大きな価値があります。その困難を乗り越えた結果から、自ずと小平への集客が起こるのではないのでしょうか。</p>	<p>なお、市街地再開発事業の具体的な事業計画につきましては、市街地再開発準備組合を中心として検討を進めているところですので、参考意見とさせていただきます。</p>	

■ 第5部 都市計画マスタープランの推進

番号	ご意見等	検討結果	対応
116	<p>目標、スローガンは大変すばらしいものだと感じました。内容もよくまとまっていると思います。しかしながらこの目標を達成するための成果への道筋が曖昧なため、結局目標とはかけ離れた結果になることが往々にしてあります。目標を具体化させるプロセスを明確にし、一応やっておきましたという形式的なものではない住民参加の取り組みを行った上で本当に人に優しい市民が主体となった街づくりを実行できる体制について明確にさせていただきたいと考えます。</p>	<p>都市計画マスタープランは、「都市計画に関する基本的方針」を示すものですので、具体的な事業計画やプロセスなどは、個別計画に委ねられるものであると考えておりますが、具体の事業等につきましても、「第5部 都市計画マスタープランの推進」に示しますとおり、参加と協働によりまちづくりを進めてまいります。</p>	参考意見
117	<p>○P83 「マスタープランの推進」この部分は本来第3部の「全体構想と実現に向けた取組」の冒頭に来るべきだと思います。それにより、各部の内容も変わってくるでしょう。「市民生活に身近な地区」の考え方の冒頭に「本マスタープランでは、全体構想で市全体のめざすべき将来像やその実現に向けたまちづくり方針などを示しました」とありますが、その部分にこそ市民が入らなければならないと思います。</p>	<p>今後のまちづくりにおいては、参加と協働のまちづくりが重要であると考えていることから、本マスタープランにおけるさまざまな取組みを包括する意味で、最後の第5部に「都市計画マスタープラン推進」を掲げておりますので、全体の構成を踏まえ、順番を変更することは考えておりません。</p>	反映しない
118	<p>○P86 まちづくりの推進に向けた市の取組 市と市民が一体となって計画することの難しさはあると思いますが、それぞれに変わらなければなりません。この計画をつくるにあたってもっと市民を信用して頂き、参画する方法を考えませんか。具体的な案を皆持っています。机の向こう側に座るのではなく、同じ側に座って計画したいと思います。運営も市と市民で行えばよいと思います。</p>	<p>本マスタープランの改定にあたっては、多くの市民の方を対象として、オープンハウス形式によるまちづくりサロンを全14回実施するほか、まちづくりカフェ（ワークショップ）、まちづくりフォーラム（講演会）など、さまざまな方法で、意見収集を行ってまいりました。ご意見につきましては、今後の具体の施策・取組み等の参考とさせていただきます。</p>	参考意見
119	<p>第5部 都市マスタープランの推進 第1章の2及び第2章の4に関して</p>	<p>小平市民等提案型まちづくり条例にもとづく「地区まちづくり計画」な</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>参加と協働のありかたを基本的に考えなおすこと。プランの言葉の上では市民の参加と協働を提起しているが、現在の本質は参加はさせるが決定には参加させない。決定は行政の専権、裁量権である。これが現状ではありませんか。</p> <p>端的に結論を申し上げます。ごたごたと論ずる必要はありません。</p> <p>「住民が参加する事業は住民にも決定権を与えよ」</p> <p>もちろん、住民が決定に参加する、参加できるようにするには、多岐の観点から住民に学習が必要です。この学習を住民と行政が協力して準備すべきです。</p>	<p>どは地区の市民のみなさんが主体となって内容を定めるものになっております。そのほかにも、駅前再開発事業や土地地区画整理事業における事業計画なども地区のみなさんが主体的に決めております。</p> <p>都市計画道路の整備につきましては、広域な交通ネットワークの形成などのさまざまな観点から、市などが総合的に整備の方針を示してまいります。道路整備による周辺のまちづくり等につきましては、市民参加により整備を進めていきます。</p> <p>「まちづくりの目標 5 市民の“ちから”を活かせるまちをつくる」の戦略 1 などで示しますとおり、今後も、市民のまちづくりへの参加の機会の場を提供に努めてまいります。</p>	
120	<p>&lt;市民参加の推進について&gt;</p> <p>6年間で1度も使われていない(小川西町4丁目推進地区まちづくり協議会はモデルケースということですが入りますか?)市民提案型まちづくり条例を、この先10年間このまま推し進めて、果たしての市民参加が促されるのだろうか?という疑問がある。p20の地域のまちづくりのグラフを見て、確かに周知も必要だけれども、注目しなければいけないのは、知っているの中で、『知っているが、進めることは難しいと思っている』が『知っており進めたいと思っている』と『知っているが興味がない』より多いという点だと思う。このままでは、仮に周知が上手くいったとしても活用されない可能性が高い。</p> <p>”知っている”人は、まちづくりに意欲があり、何かこの条例を活用して実現しようと思ひ、自分で情報を取りに行っただ人多いと思うので、その人たちでも『難しい』がこの割合なら、これから先どんどん活用の割合は</p>	<p>ご指摘のとおり、「小平市民等提案型まちづくり条例」は、平成22年に制定して以来、市民発意に基づく「地区まちづくり協議会」の設立や「地区まちづくり計画」の策定などの事例はございません。</p> <p>本条例は、平成19年に策定した現行のマスタープランを受けて制定したため、本マスタープラン改定により、初めて条例上の制度の仕組みや活用に向けた取組みについてマスタープランに位置づけることができたところです。そのため、本条例が活用されていない状況は、「まちの主な課題」として示しております。</p> <p>今後は、「まちづくりの目標 5 市民の“ちから”を活かせるまちをつくる」などで掲げておりますとおり、まちづくりに関する情報提供や市民の身近なまちへの関心を高める場の提供を</p>	反映済み

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>低くなっていくのではないか。</p> <p>アンケートの『進めることが難しい』の理由を把握しているなら明記して、市民提案型まちづくり条例の改善を計画に入れてほしい。でないと、周知の時間と労力が無意味なものになりそう。活用されない要因が明確でないなら、今ある市民団体や要望を持っている人に、なぜ使わないのかの理由の調査も必要だと思う。ともかく、進めることを難しくさせている何かがあるだから、改善は必須だと思う。都市マスの p81 (2)「小平市民提案型まちづくり条例の活用」に、市民提案型まちづくり条例の内容の改定を明記して、活用されるものにしてほしい。</p>	<p>行うなかで、本条例の周知を図ってまいります。</p>	
121	<p>＜提案型まちづくり条例の内容の改定点＞</p> <p>市民が変えたいのは、自分の地区だけでなく小平全体に関わることもかもしれない。各拠点に駐輪場や掲示板を設置するなど。出てくる提案の想定が限定的な気がするので、様々な提案に対応可能なものになると良いと思う。</p>	<p>「小平市民等提案型まちづくり条例」は、地区まちづくり推進を図るという趣旨によるものであり、これを超える区域の課題に関しましては、他の手法により実現をめざすべきと考えます。</p>	参考意見
122	<p>地区住民の過半数の同意、土地所有者の2/3の同意が難しい（特に広範囲にわたるものは）と思っているのではないか。 p7のQ &amp; A の”合意形成をはかるのは難しいのでは？”に対する回答"広報紙を発行したり、地域懇談会や説明会などを開催することにより周知し同意を得ていくことが考えられる"とあるが、広報紙や説明会による周知の難しさは、市の方も市の催しを実地する中で十分痛感していると思う・・・。</p>	<p>地区まちづくり計画・ルールは、そのエリアのまちづくりの目標や方針を設定し、建築制限などを行おうとするものであることから、前提として権利者などの一定の合意を得ることは必要であると考えます。合意形成の難しさが課題のひとつであることはご指摘のとおりであり、まずはもう少しハードルの低い地区まちづくり準備会の設立や支援の仕組みなどから丁寧にお知らせしつつ、地区まちづくりの動きだしのきっかけとなるような啓発の取り組み方を検討していきたいと考えております。</p>	参考意見
123	<p>ステップが難しく相当の意気込みのある</p>	<p>「小平市民等提案型まちづくり条</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>事例でしか活用されないと思う。気軽に使えるものにはなっていないと思う。よって、提案型まちづくり条例パンフレットのp3の”気になっていることありませんか”の例も、この条例の例として適切だろうか？思う。</p> <p>自分の生活の相当の時間を長い期間でかけてやっと実現可能なように思うので、似た意見を持ってはいるが他に生活のある、この絵に登場するような人たちのような立場でイメージした場合、条例を活用しようと思わないのではないかと思う。</p> <p>ここに出ている要望に、条例のステップを踏むまでもなくできるだろう事も入っているのもわかりにくくなっている。</p> <p>何の問題もなく 2/3 も同意が集まるような事例は、この条例で通さなくても、調査で必要なことがわかるし迅速な対応が必要だと思うので、合意をとらなくても、一市民から要望があった時点で判断してスピーディーに行うで良いと思う。</p> <p>本当にこの条例の力が必要そうな事例もあるかと思うので、そちらをしっかりとイメージできるように伝えてほしい。</p>	<p>例」は、都市計画法や建築基準法などによるまちづくりの仕組みと比較して使いやすく、また、それらの枠組みを超えた様々な問題意識にも対応しうるよう、考えられております。</p> <p>ご指摘を踏まえ、今後の普及啓発活動などにおいては、条例の有効性・必要性をうまく伝えられるよう、適切な事例設定を含めて企画を検討してまいります。</p> <p>なお、市としては、地域住民の方が地区まちづくりの担い手として主体的に取り組むべき意識をもつことが、その地区への愛着につながることを期待しているものでございます。</p>	
124	<p>仲間を作って同意を集める活動というステップは、当然計画を快く思わない人もいると思うので、その経緯で、市民間の対立・分裂ということも起こると思うが、その影響は想定しているか？その場合の收拾や対処はあるのでしょうか？</p>	<p>市からの情報提供やアドバイザーによる技術的支援などを通して、丁寧な合意形成を支援してまいります。</p>	参考意見
125	<p>もっとハードルの低くて、気軽に取り組みよう！と思える仕組みに変えないと、せっかく作っても活用されずもったいなく思います。今のこの条例を使うのに想定される人は、まちづくりというよりは、問題が起きた時に市民の利害を守るための最後の砦という感じの印象を受けます。</p>	<p>地区の計画・ルールをつくるという性質上、一定の条件を設定することは必要ですが、地域の方々が早い段階で本条例の活用を検討しうるよう、普及啓発を工夫していきます。</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
126	<p>＜市民の”ちから”を活かせるまちをつくるについて＞</p> <p>市民提案型まちづくり条例では、「市民の”ちから”を活かせるまちをつくる」というより、「市民の利益を自分たちで守れる」というほうに近いのではないか。</p> <p>市民提案型まちづくり条例をそのまま押し進めるよりは、公園を作る時に中に作る遊具を近所の親子で会議して決める、地域の都市計画の計画段階からの意見参加ができる、などの、簡単に参加できて意見も反映されやすい取り組みに、いかに多くの人に関わってもらえるかの方が、市民の”ちから”や市民参加に興味を引き出すのに効果的ではないか。そういう活動のほうが市民も参加したいと思っているのではないか？そちらに力を入れたほうが、全体にプラスの方向に向くと思う。</p> <p>都市マスでは市民提案型まちづくり条例の活用が大きく割合を占めていて、メインになってしまっている印象を受ける。今までもそういう場を作ってきていてこれからも力を入れていくということであればとてもいいと思うので、具体的な計画に意見が反映される仕組みにも力を入れるとイメージがつくように書いてほしい。</p> <p>また、セミナーやフォーラムも必要だと思うが、一部のまちづくりに興味がある人しか参加しないのは、自分の勉強で終わるのが一つの要因だと思う。もっと広い範囲の人、今まで来なかった層の人たちに興味を持たせるには、実際に意見が採用されて実現したり、具体的なものにつながっていく場の提供ではないか(もちろんその人たちに届くような周知の工夫も)。『協働のまちづくりの推進』を掲げるなら、興味を持つまでの誘導は取り組みとして必要だと思う。機会の提供ではなく、『効果的な』機会の提供をアイデアを出してめざしていきたいところだと思う。</p>	<p>「小平市民等提案型まちづくり条例」の目的は、市民主体のまちづくりの実現です。本条例を活用しない場面においても、「小平市自治基本条例」の趣旨にかんがみ、多様な市民参加の機会を設けていくことが望ましいと考えます。本マスタープランに掲げるまちの将来像の実現に向けては、さまざまな協働のまちづくりあり方を検討しながら進めてまいります。</p> <p>セミナーやフォーラムなどの啓発事業については、ご指摘のとおり、勉強の機会のみで終わらせないさらなる工夫が必要であり、より効果的・実践的な企画について検討を進めてまいります。</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>市民参加に意欲を持つきっかけは、自分の意見が実際に反映される可能性があると思えることだと思えます。</p> <p>都市マスのパブコメも良いきっかけになる取り組みだと思えます。</p> <p>市民からの良い意見が積極的に採用されれば、市民参加も促せられるのではと期待しています。</p> <p>改定に努力してくださっている、検討委員会の方、市役所の方をはじめ、関係者の方々、ありがとうございます。より良い改定がんばってください。</p>		
127	<p>○87p 見直しについて</p> <p>マスタープランの目標とする平成 38 年度までの 10 か年は様々な変革が予想されます。特に 2020 年（平成 32）に開催される東京オリンピック後の経済の行方、それが小平にどのような影響を与えるのか。企業の撤退や税収減等による計画の実現性への不安あります。</p> <p>「見直しの必要が生じた場合には・・・市民参加により見直し作業を進めます。」とありますが、どのような方法・手順で見直しを行うのか、もう少し具体的に示してください。</p>	<p>都市計画マスタープランは、社会経済状況の変化に対応し、上位計画に即して定める必要があるため、見直しの必要が生じた場合には、本マスタープランにおける改定の取組みを参考にまいります。具体的方法や手順につきましては、改定の際に検討いたします。</p>	参考意見
128	<p>○85p 3 市民主体の地区まちづくりの進め方</p> <p>マスタープランを作成しただけで終わっては、これまでのように、行政の手の届かないところでマスタープランにお構いなく小平市民が小平市を変化させていきます。また、マスタープランは縦割り行政の結集のように見えます。それでは適切なまちづくりはすすめられません。「わたしたちのまちのつくり方」という団体で、「小平市都市計画マスタープランへの市民提案」を作成し市に提出しました。そこでは、「市民主体のまちづ</p>	<p>本マスタープランにおきましては、都市計画に関する取組みの中で、さまざまな市民参加によるまちづくりの方針を示しておりますほか、今後「小平市民提案型まちづくり条例」の活用を図っていく方向性も記載しております。</p> <p>「総合窓口」と「市民会議」制度につきましては、都市計画事業に関する市民参加の取組みだけでなく、市政全般に関わる取組みに関するご意見であると考えられますので、今後の参考</p>	参考意見



番号	ご意見等	検討結果	対応
	くりを実現するために」市民と行政をつなぐ「総合窓口」と「市民会議」制度の提案をしました。「小平市民提案型まちづくり条例」は、有効に使うことができればと思うのですが、地区に限定されてしまう点で使いにくさがあります。地区に限定されずに広く市民が提案して検討する、どこに住んでいる市民も参加できる制度があるといいと考えます。次のマスタープランに向けてすぐに検討をお願い致します。	とさせていただきます。	
129	小平市のまちづくりが都の計画と乖離する場合は、市として都に申し立て、市のまちづくりを説明し、都とよりよい解決策に向けて交渉する。	東京都が関係する都市計画事業につきましても、本マスタープランに基づき、必要に応じて、東京都と調整を図りながら、連携して事業を進めてまいります。	一部反映 済み
130	市民の意見を反映させるしくみを改善する。より早い段階で、より根本的な計画について意見を聞くべき。	本マスタープランの改定の取組みは、多くの市民の方のご意見をうかがいながら進めてまいりました。今後の具体の施策・取組み等につきましても、市民参加を努めてまいります。	一部反映 済み

■ その他

番号	ご意見等	検討結果	対応
131	まちづくりよりひとりひとりの意識も大切。自転車のルールをわかっていない。歩行者も。学生の多い通りなど。公園の使いかた、タバコのマナー、日常でもキケンな場面が多く腹が立つこともあります。アパートの敷地内を駐輪場がわりに使う。コンビニ前に置きっぱなし。ゴミ集積所に通行人がゴミをすてる。センスのない立て看板（市）、放置自転車。市のパトロール車がパトロールしていない。歩かなければわからない。ボランティアパトロール等で市内に目ごとどくように。	放置自転車などの自転車利用者に対する交通マナーにつきましては、「まちづくりの方針<部門別>」の「2道路・公共交通ネットワーク等の方針」に記載しております。他のご意見等につきましては、他の分野における施策・取組み等の参考とさせていただきます。	参考意見
132	①苦言です。西地域のまちづくり、中央地域	実際の大きさは、A4サイズと見や	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>のまちづくり、東地域のまちづくりの地図が小さくて虫メガネを使っても見えません。意見を求めるなら3地域のA4の大きさの地図を作って配布して下さい。</p>	<p>すい図となっております。概要版等の作成の際の参考とさせていただきます。</p>	
133	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に爆破力が不足していませんか。</li> <li>・小平市をどうして不死鳥のごとく羽ばたき域をつくるのか設定が感じられません。</li> <li>・小平市は学園都市ですネ。一橋、放送、ムサビ、白梅、津田、カエツ、文化等多彩な若き学生力をかりませんか。</li> </ul>	<p>「まちづくりの目標3 “にぎわい”を育むまちをつくる」にも掲げておりますとおり、大学等の集積は地域資源であると考えておりますが、具体の施策・取組み等につきましては、他の分野とも連携しながら取り組んでまいります。</p>	参考意見
134	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、実績の検証、それに基づくマスタープランの筈。所謂、PDCAの考察が必要ではないでしょうか。</li> <li>・いつまで、いくらにする、どのように等、数値の示しがほしい。</li> </ul>	<p>都市計画マスタープランは、「都市計画に関する基本的方針」を示すものですので、具体的な進捗管理や数値目標などは、個別計画に委ねられるものであると考えております。</p>	参考意見
135	<p>素案への意見の前に、改定の進め方への意見を述べます。市役所の都合が優先されていて、市民の意見を反映しにくい進め方になっているのではないのでしょうか。その結果が、アンケート調査の回答率の低さ、まちづくりカフェやまちづくりサロンの来場者の少なさに表れていると思います。市民との接点を増やそうと努力していることはわかりますが、市民と意見交換する形で検討を進めないで、市民にとっては形作りのように感じられます。今回の素案への意見募集も年末年始の忙しい時期に実施するというのでは、特定の市民からの限られた意見しか集められないと思います。最近重要な長期計画の策定が続いています。複数の部署が各々策定するサイロ型の進め方になっていて、内容に重複感もあります。市役所と市長が関連する計画を総合的に、市民にアピールする必要があるのではないのでしょうか。市民が理解したうえで意見交換ができないのでは、市民参加の効</p>	<p>本マスタープランの改定にあたっては、約3カ年にわたり、市民アンケート調査、まちづくりカフェ（ワークショップ）、まちづくりサロン（オープンハウス）、まちづくりフォーラム（講演会）、中間まとめ意見募集、パブリックコメント、駅前チラシ配布など、さまざまな方法で、意見収集やPRを行ってまいりました。ご意見につきましては、今後の具体の施策・取組み等の参考とさせていただきます。</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	果が期待できず残念です。		
136	<p>3. 経営体としての持続性をどう担保するのか？</p> <p>将来の歳出増、歳入減を想起させる報告内容だが、「みどりつながる快適生活都市」を目指すことで、小平市の経営体としての持続性を担保できるのかどうかよくわからない。歳出の話ばかりで、歳入増に繋がる話が全くない。「働きやすい、働く人が住みやすいまちづくり」を掲げて、生産者人口増・歳入増を図ったらどうだろうか？大学生や子育てする共働き夫婦が小平市に住み続けてくれば、市内消費も増えて都市農業や商店街の活性化にもつながり、新たな展望が開ける。</p>	<p>学生や子育て世代に配慮したまちづくり、農地の保全や商店街の活性化等は踏まえておりますが、都市計画マスタープランは、「都市計画に関する基本的方針」を示すものですので、市の経営に関することにつきましては、必要に応じて個別計画等に委ねられるものと考えております。</p>	参考意見
137	<p>4. 小平市のまちづくりにフィットした、新たな産業振興策が必要</p> <p>従来通りブリヂストンなどの大企業の工場・研究所を想定しているが、小平市の「プチ田舎」にフィットした先端型・ソフトウェア型の中小企業の誘致を検討したらどうだろうか？インキュベーションセンターや企業のサテライトオフィスの設置も検討課題だ。大学との連携も重要だが、市内に特色のある大学がありながら、活かしていない。産学公共同で対策が必要だ。多摩地域の多くの自治体が似た状況にあるので、小平市ならではの特色が必要だ。</p>	<p>東京都の「都市計画区域の整備・開発及び保全の方針」においては、小平市は「産学公連携による産業立地の促進」を図るエリアとされておりますことから、本マスタープランにおいても「まちづくりの目標 3 “にぎわい”を育むまちをつくる」を設定いたしました。ご意見につきましては、個別計画や今後の具体の施策・取組み等の参考とさせていただきます。</p>	一部反映 済み
138	<p>まちづくりの会議に参加して、小平市の姿勢で感じたこと。統計などの数字にとらわれすぎている。もっと市民の知恵を吸い取り、通り一遍の流れを変えうるような企画を考えてほしい。</p> <p>小平は緑が豊かなところが一番、この特徴を守り抜く姿勢。</p> <p>計画のある道路を全部作ったら小平の良さが半減する。計画の段階で市民の声を取り</p>	<p>本マスタープランでは、市の成り立ちや国・東京都の動向等を踏まえ、多くの鉄道駅、特徴的な自然環境や歴史・文化、産業の拠点を性格に応じて拠点として位置づけ、その性格を育むとともに、市内外の拠点との交流を支えるネットワークの強化を図る都市の方向性を示しております。</p> <p>また、「まちづくりの目標 3 “にぎ</p>	一部反映 済み

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>入れ、ゆったりとした街づくりをする。</p> <p>それと同時におしゃれなブティック、カフェや、文化的な図書館、画廊、美大生が活躍できるような工房がある複合施設を小川駅前を作り、再開発。趣味的な買い物は都内や立川、国分寺でしている人が多いが、地元でそうした買い物をしてお金を落とせるようにする。そうした商業施設を積極的に誘致する。</p> <p>こうした企画会議にもっとお金をかける。プロのファシリテーターを導入した地域には成功例が多い。</p> <p>箱モノの縮小や統合は仕方ないことである。寧ろ建築費用の掛からないプレーパークなどを充実させて絆づくりをし、小平で子育てをしたいと思う若い世代を呼び込む。学童保育にも活用する。子育ては家族だけではできないことが立証されている。地域で子育てする仕組みを積極的に取り入れることが大切。白梅学園大は地域に開いた大学であり、子育て支援の知恵を蓄えている。地域の大学の積み重ねてきたものを具現化することをやっていくべき。</p> <p>眠っている市内の人的資源や施設を活用する。一橋大学小平校は一部しか使われておらず、とてももったいない気がする。</p> <p>国の施設だが、有効に使えるように交渉はできないのか？地域で活躍する人材を育成する地域大学的な活動が必須である。</p> <p>これからも小平で生活していきたいと思えるような街にしていくことが必要。それには市民も街づくりに参加して当事者意識を持つことが大事。しかしながら現在まちづくりマネジメントに参加する人は少ない。人材を育てることは急務であり、そしてそれが魅力的である必要がある。未来を担う若い人と子どもたちが関われるような「安心して子育てできる地域づくり」「みどりを守り活かす」「大学との積極的なコラボレーション」「高</p>	<p>わい”を育むまちをつくる」では、大学等の連携、地域別構想では、小川駅などの鉄道駅周辺の拠点性の高める市街地再開発事業などの取組みを記載し、これらのまちづくりの推進にあたっては、「第 5 部 都市計画マスタープランの推進」において、市民参加・協働のまちづくりを推進する旨を示しております。</p> <p>具体的なご意見につきましては、他の分野と連携しながら、今後の具体の施策・取組み等の参考とさせていただきます。</p>	

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>齢者を見守り、防災対策ができる自治会の再編」「ランドマークになるような、おしゃれな商業施設の誘致」</p> <p>今のままの役所の組織でそれが無理なら、役所内を再編することも必要と思う。</p>		
139	<p>全体に漠然としていて具体的に何をするのかわかりにくい。</p>	<p>都市計画マスタープランは、「都市計画に関する基本的方針」を示すものですので、具体的な事業計画や数値などは、個別計画に委ねられるものであると考えております。</p>	参考意見
140	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人々が集まる拠点づくりは商店や病院、学校など、すでにある“人の集まる”場所やその周辺を活性化する施策をお願いしたい。</li> <li>・駅ごとの役割の違い以前に、駅周辺はやはり店が多くあって便利であるべきである。花小金井駅のようなぎわいを可能な限り他の駅でも行うべきである。もっとあかぬけてほしい。(=観光化という意味ではない)</li> </ul>	<p>本マスタープランでは、「将来の都市構造」において、各鉄道駅などを性格に応じて拠点として位置づけることを示しており、また、小川駅、小平駅、花小金井駅周辺地区の拠点性を高めるまちづくりの方針につきましては、地域別構想で示しております。</p>	反映済み
141	<p>(大型スーパーや大型商業施設、チェーン店等の誘致と駅前ロータリーを広くとってゆったりとした快適な空間づくりを)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車や自動車を置いて買い物をするスペースが少なくせかされている気分。</li> <li>・幹線道路沿い(特に青梅街道)に店が少なく田舎っぽくて不便。</li> </ul>	<p>駅前広場や自転車駐車場(駐輪場)の整備につきましては、「まちづくりの方針&lt;部門別&gt;」の「2 道路・公共交通ネットワーク等の方針」に示しておりますとおり、推進してまいります。また、幹線道路沿道の土地利用につきましては、「1 土地利用の方針」に示しておりますとおり、地域特性を踏まえた幹線道路沿道にふさわしい土地利用を図ります。</p>	反映済み
142	<p>3) おしゃれなお店が少なく、人を呼び寄せるには今一つと感じている。狭山緑道沿いにはいくつかのお洒落なカフェがあるが、もっとそのような店を積極的に誘致できないか。必要があれば補助をしたらどう</p>	<p>本マスタープランにおいては、市内外の人にとって魅力的なまちづくりを進める「小平市観光まちづくり振興プラン」の理念を踏まえておりますが、ご意見につきましては、今後の具</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	か。住みやすさと共に人を魅了する街の仕掛けを併せて考えるべきと思う。	体の施策・取組み等の参考とさせていただきます。	
143	公園や学童地域センターなど子どもの環境に関して配慮していくような方向性を打ち出す。(子どもは地域の将来の宝です。街の発展を考慮した場合最優先に取り組むべき内容です)	本マスタープランでは、都市計画公園の整備など、子育て世代にも配慮したまちづくりを踏まえておりますが、具体的にご意見につきましては、他の分野と連携しながら、今後の具体の施策・取組み等の参考とさせていただきます。	参考意見
144	<p>私が住む周辺もそうですが、空き家がある割には畑や(敷地の広い)古い家が壊された後に、新しく戸建や集合住宅になっていることが多い気がします。</p> <p>小平に住んでいる、住みたいと思う人の多くが緑の多さやのんびりとした雰囲気の魅力的だと考えているのではないのでしょうか？</p> <p>土地所有者の相続や市の財源のこともありますが、小平の中でもその地域が望む開発、大切にしたいものがあるように思います(小川駅、小平駅北口開発等)。</p> <p>市民にとってとても重要なプランにも関わらず、説明や意見を求める機会が少ないように思います、(このパブコメも知り合いから教えてもらったのですが、)仕事をしていたり、子育てや介護をしている一般市民には十分に情報が届いているとは思えません。</p> <p>イベント的に説明会を開催したり、メンバーを限定した検討委員会を設けるのではなく、広く市民との協議、対話の時間を持つ窓口や機会の必要性を感じます。</p> <p>道路計画も何十年も前の計画が、現在や未来にとって必要だとは思えないものが多いです(なので見直しの作業が必要になっているのだと思いますが…)。</p> <p>計画ありきではなく、市民が望むまちづくり、未来に負の遺産を残さないためにも、市</p>	<p>本マスタープランの改定にあたっては、約3カ年にわたり、市民アンケート調査、まちづくりカフェ(ワークショップ)、まちづくりサロン(オープンハウス)、まちづくりフォーラム(講演会)、中間まとめ意見募集、パブリックコメント、駅前チラシ配布など、さまざまな方法で、意見収集やPRを行ってまいりました。</p> <p>その中で、市のみどりが大切であるというご意見が多かったことから、「まちの将来像」や「まちづくりの目標」などにおいても、みどりの維持・保全を図る方針を示しております。一方で、将来の都市のあり方においては、鉄道駅を中心とした利便性の高い生活圏の形成と、メリハリのある役割・機能分担と互いの交流を支える連携軸(ネットワーク)の強化を図ることが必要であるため、市街地再開発事業や都市計画道路の整備などの取組みも進めてまいります。今後の具体的な市民参加の取組みにつきましては、今後の具体の施策・取組み等を進めるにあたっての参考とさせていただきます。</p>	一部反映 済み

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>民の声を反映した検討、またそれを吸い上げるための仕組みづくりをお願いします。</p>		
145	<p>2. 徹底論議によるまちづくりを推進すること</p> <p>小平市としては PR 活動はしているものの、都市計画マスタープランに対する市民の関心は低いと言わざるを得ない。このことをどのように理解すべきなのだろうか。</p> <p>私は、小平 3・2・8 の住民投票運動に関わったが、市民の皆さんは関心が低いというより、「そんな道路が計画されているなんて知らなかった」とうのが実態である。結果としては、ほぼ同時期に行われた市長選挙と比肩する投票率が、知ったからこそ投票にいったことを証明している(それにしても住民投票も市長選も投票率は 30%台と低率であった)。</p> <p>市当局は、「なぜ市民の関心が低いのか」「どうすれば関心を高めることができ、意見を述べることができるのか」について市民とともに検証し、10 年先を、さらにその先を見据えたまちづくりのありかたを市民とともに考え、実践する組織をつくることから始めてもらいたい。</p>	<p>本マスタープランの改定にあたっては、約 3 年にわたり、市民アンケート調査、まちづくりカフェ（ワークショップ）、まちづくりサロン（オープンハウス）、まちづくりフォーラム（講演会）、中間まとめ意見募集、パブリックコメント、駅前チラシ配布など、さまざまな方法で、意見収集や PR を行ってまいりました。今後も、本マスタープランに基づく、参加と協働のまちづくりを進める中で、都市計画マスタープランやこれに基づく事業等の周知に努めてまいります。</p>	参考意見
146	<p>小平市長小林正則様が年頭にあたり市の魅力を高めるため小川西口、小平駅北口再開発に道筋をつけたいと考えている様子。又、私の住んでいる付近では、小平 3・4・24 小川橋青梅橋線の工事がそろそろ始まる為、立退く家の人達は慌しく少しずつ小平のまち作りも動き出している気配。あと 10 年、30 年過には大きく様変わりするだろうと思っております。大きな建物が出来、道幅が広くなっても小平の最大の魅力のポイントは玉川上水の自然の様子、四季折々の変化する様子は深呼吸したくなる空気が漂っている所ではないかと思う。私も後期高齢者ですし、</p>	<p>本市では、玉川上水などで構成する小平グリーンロードをはじめとした、多くのみどりが大切であると考えているため、本マスタープランにおける「まちの将来像」は「みどりつながる快適生活都市 こだいら」となっているほか、「将来の都市構造」でも小平グリーンロードを連携軸と位置付けるなど、みどりの維持・保全・活用の方針を示しております。一方で、今後のまちづくりにおいては、鉄道駅周辺の利便性向上や道路ネットワークの充実も重要であると考えており</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>世代交代致し、若い人達にバトンタッチ致したく思います。長い間こまごまと報告していただきありがとうございます。陰ながらマスタープランを見守っていきたいと思っております。</p>	<p>ます。これからも、本マスタープランに基づき、魅力あるまちづくりを進めてまいります。</p>	
147	<p>&lt;周知について&gt;</p> <p>みんなが目標を共有して、具体的実現に市民の力が向くと素晴らしいと思うので、マスタープラン制定後も続けて周知をお願いします。認知が低すぎるとせっかく良い目標でももったいないです。今までの周知の仕方で効果がなければ、別の方法に大幅に変えるくらいの努力で。</p> <p>役所全体で気になる事ですが、広報を読まないから仕方ないのではなく、読ませる工夫をする必要があると思っています。都市マスの存在も知っていて読まないのならまだ良いけど、存在を知らないのはちょっとまずいかなと思います。アイデア必要でしたら一緒に考えるので言ってください。応援しています。</p>	<p>第1部第1章のマスタープランの「役割」に示しておりますとおり、マスタープランの実現に向けては、市民・事業者・市において情報共有し、相互連携して取り組むことが不可欠です。本マスタープラン改定においては、この「参加と協働のまちづくり」の視点を強く意識し、第5部とし位置づけております。</p> <p>市といたしましても、マスタープランに示すまちづくりの方向性の周知を図り、市民の皆様による主体的なまちづくりの啓発を図ることが、重要であると考えております。マスタープラン策定後も、市報などを活用した効果的なPRに努めるとともに、引き続き、セミナーなどの取組みを検討してまいります。</p>	参考意見
148	<p>全体として、子どものための配慮が少ないように思います。交通の便がよく、これからも若い世帯が増えるはずなので、児童館のような、子どもや中高生が集って遊んだり、活動したり交流したりできるようなスペースを、まちづくりの中で考えるべきです。</p>	<p>本マスタープランでは、都市計画公園の整備や地域コミュニティを育む拠点づくりなど、子育て世代にも配慮したまちづくりを踏まえておりますが、具体的なご意見につきましては、他の分野と連携しながら、今後の具体の施策・取組み等の参考とさせていただきます。</p>	一部反映 済み
149	<p>公共施設については、耐用年数ごとに考えるのではなく、地域ごとに考えたほうがいいのか。十分に情報公開し、説明し、住民とともに検討して解決策を模索する場を作る。市民との共働なしには解決は不可能</p>	<p>本マスタープラン以外の個別の計画の参考とさせていただきます。</p>	参考意見



番号	ご意見等	検討結果	対応
	ではないか。		
150	<p>意見 2 みどりがつなぐコミュニティを創造することを希望します</p> <p>時代にあった「環境」＝コミュニティを創造していくとき、セルフネグレクト、買い物難民、児童虐待など、つながりの希薄化がもたらす無縁社会に対応する政策も必要です。その打開策となるのは人と人のつながりの回復ですが、これについてヒントとなるのは自然を媒介とした顔の見える関わりがつながりを豊かにするという報告です。小平市は玉川上水など歴史的に人と自然が関わる中で「開発」してきた地域自然資源が既にあります。</p> <p>この資源をこれまでのように壊すだけの「開発」ではなく、活かしていく「開発」として価値転換していきましょう。他の自治体が試みるみどりの観光資源の「開発」を新しくやらなくてもすむというメリットを理解すべきです。それはこれまで維持されてきた地域自然資源を未来世代に残していく現在世代の責任でもあります。市民が互いに関わる場の創造について自然環境を大切にする自治体であって欲しいです。</p>	<p>本マスタープランでは、今後のまちづくりに向けては、人のつながりが大切であるため、「まちづくりの目標 3 “にぎわい” を育むまちをつくる」や「まちづくりの目標 4 “ひと” にやさしいまちをつくる」といった目標を設定しております。そのため、今後も、みどりなどの地域資源を活かし、観光まちづくり振興プランで掲げる「都会から一番近いプチ田舎」が感じられる都市の形成を図ります。</p>	反映済み
151	<p>すでに、東京都や市が制定した、「決まりごと」の中で、暮らしの不便さを意見するジレンマを感じています。まず今の情報開示を見直すべきと考えます。</p> <p>市民は、外の業者が入る複合施設より、地域に持続可能な雇用を小平市に作ってほしい。あそこには、誰が（人も動物も）いて、こんなことが好きらしい、なんて相手を思える距離感を生み出せる循環型の開発を期待します。</p> <p>小川駅の開発も、開発＝新しいビルではないと思う。</p> <p>プチ田舎というレッテル貼りたいなら、玉</p>	<p>本マスタープランにおいては、市街地再開発事業などにより鉄道駅を中心とした利便性の高い生活圏の形成と互いの交流を支える都市計画道路などの連携軸の強化を図ることで、市全体としての都市機能の向上をめざし、持続可能な都市の形成を図ることとしております。これらの実現に向けては、地域特性や環境に配慮し、また人のつながりの醸成に向けた整備を進めてまいります。</p> <p>小川駅西口につきましては、幅員の狭い道路に沿って古い建物が多く、災</p>	参考意見

番号	ご意見等	検討結果	対応
	<p>川上水を潰したり、雑木林を自然を破壊する術は捨てたらいいのに。いかがでしょうか？最後に。</p> <p>住民投票を開票せず、民意を知ろうとしなかった小平市がこの意見を、ちゃんとひとつの意見として取り扱ってもらえるのか、不信感がありますが、以上を提案させていただきます。よろしくお願い致します。</p>	<p>害時の危険性があることや、商店の賑わい不足などの課題があり、この課題を解消するためには、駅前広場や道路などの整備にあわせ、商業施設や住宅施設を一体的に整備する市街地再開発事業が適していると考えております。</p>	
152	<p>都市の環境倫理の観点から小平市のまち歩きを行いました。都市の中に農地・緑地が多く、よいまちだと思いました。このよさを壊すことなく、維持していただきたいものです。都市の中の自然を壊しておきながら、子どもたちに「環境教育」とか「自然保護」とかを訴えても説得力がありません。玉川上水など、他の地域から見るとうらやましい環境といえます。それを壊すことは地域の魅力を甚だしく失わせることとなります。少なくとも緑地や農地、玉川上水があることを理由に転入してきた人々は落胆するでしょう。グリーンロードの利用率は素晴らしいものがあると思います。グリーンロードは小平市民にとって、なくてはならない環境だということが分かります。このような市民の生活に密着した環境を改変することは、慎重にならなければなりません。また、地域の個性や魅力は、歴史をいかに反映しているかによります。小平の歴史をふまえた個性的なまちづくりを目指すか、他の地域と同じような没個性的なまちを目指すか、よく考えてからマスタープランの改定を進めてもらいたいと思います。最後に、地域外から見て、小平市の環境は素晴らしいと思いました。自然と歴史をふまえた良い町になっていると思います。これが環境改変によって、どこにでもある地域になってしまったら、市外からの見学者も来なくなるでしょうし、転入者も減るでしょう。</p>	<p>本市では、市のなりたちや歴史を踏まえ、玉川上水などで構成する小平グリーンロードをはじめとした、多くのみどりが大切であると考えているため、本マスタープランにおける「まちの将来像」は「みどりつながる快適生活都市 こだいら」となっているほか、「将来の都市構造」でも小平グリーンロードを連携軸と位置付けるなど、みどりの維持・保全・活用の方針を示しております。一方で、今後のまちづくりにおいては、鉄道駅周辺の利便性向上や道路交通ネットワークの充実も重要であると考えております。これからも、本マスタープランに基づき、魅力あるまちづくりを進めてまいります。</p>	参考意見